

森林

林樹 造林 保護 利用

小學校ニ於ケル農業教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

實習及實驗

栽培 農業手工 栽培上ノ實驗

○第四學年 每週二時

土壤

土壤ノ分類及性質 土壤ノ微生物 土壤ノ改良

肥料

主要ナル肥料

肥料ノ分類・必要・效驗・配合・施用・評價

農業經濟

農業ノ要素 農業組織(耕種式、集約程度、大小農業)

農業管理 農業簿記 農業ノ發達ニ必要ナル諸機關

實習及實驗

栽培 農業手工 栽培上ノ實驗

注意

一 農業ハ土地ノ情況ニ依リ適宜教材ヲ取捨シ且配當ヲ變更スルモ妨ナシ

二 栽培ハ其ノ地方ノ重要ナル作物及將來有望ナル作物ニ就キテ授クルヲ要ス

三 農業科ニ在リテハ其ノ地方ノ農業學校及農事試驗場等ト聯絡ヲ保ツコトヲ努ムヘシ

水産

水産ヲ加フル場合ニハ前ニ掲ケタル要目ヲ省略シ土地ノ情況ニ應シ凡二十五時以內ヲ以テ適宜左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ授クヘシ

漁撈

漁船

船體、浮上及排水量、覆沒、種類及構造、船具、運用及航海

漁具

釣具

種類 構成 釣餌

網具

種類 構成

其ノ他ノ漁具

水族竝漁場及漁期

左ノ水産ノ種類・習性等

淡水魚貝類 溯河魚類 近海魚貝類

洋海魚類 深海魚類 海獸類

漁法

淡水魚類 溯河魚類 根魚類 底魚類 沈魚類 浮魚類

洋海魚類及深海魚類 海獸類 漁獲物處理法

製造



食用品 肥料 工用品 藥用品 製鹽

養 殖

淡水養殖 鹹水養殖 魚貝類ノ畜養法 蕃殖保護法

商 業

本科第一部

○第二學年 每週二時

商事要項及商業算術

緒論

商業

商人

商業ノ組織及經理

商業機關

手形、有價證券

賣買

賣買取引ノ條件・手續及方法

賣買取引上重要ナル書類ノ説明及之ニ關スル計算

取引所ノ意義及種類

取引所ニ於ケル取引ノ種類

稅關

關稅、戻稅、交附金

船舶出入ノ手續

貨物輸出入ノ手續

關稅ニ關スル計算

倉庫

倉庫業者ノ業務

倉庫證券

貨物出入ノ手續

倉敷料ノ計算

○第三學年 每週二時

商事要項及商業算術 第一學期第二學期 每週二時

銀行

銀行ノ意義及種類

普通銀行ノ業務

銀行事務ニ關スル計算

鐵道

鐵道業者及運送取扱人ノ業務

旅客及貨物取扱手續並之ニ關スル重要ナル書類

運賃手數料ニ關スル計算

海運

海運ニ依ル物品運送契約及之ニ關スル重要ナル書類

積込及引渡ニ關スル手續

海損

運賃及海損ニ關スル計算

保險



保險ノ意義及種類  
保險證券約款ノ説明  
保險ニ關スル手續  
保險ニ關スル計算

商業簿記 第三學期 每週二時

複式簿記

貸借及仕譯ノ意義

勘定科目

仕譯ノ練習

帳簿及其ノ記入法

結算

例題記帳及結算練習

小學校ニ於ケル商業教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

○第四學年 每週二時

商業簿記 第一學期 每週二時

複式簿記

主要帳及補助帳ヲ用フル場合ニ於ケル帳簿及諸表ノ種類關係

特種ノ勘定科目

例題記帳及結算練習

單式簿記

帳簿及其ノ記入法

結算

單複兩式ノ差異及變更ノ手續

商業地理及商品 第二學期第三學期 每週二時

商業地理

總説

都市ト産業

日本ト外國トノ交通・貿易關係

内國

産業 都市 道路 鐵道 商港 航路 郵便 電信 電話

外國

産業 都市 交通

商品

其ノ地方ノ重要ナル商品ニ就キ生産・消費・種類・品位・製造・用途・荷造・賣買單位等ノ大要ヲ説明スヘシ

注意

- 一 商事要項及商業算術ハ成ルヘク其ノ地方ノ商業ノ實際ト聯絡セシムヘシ
- 二 諸證券類ハ成ルヘク雛形ヲ示シ又各種ノ取引上ニ必要ナル書式ハ生徒ヲシテ實地練習セシムヘシ
- 三 簿記ハ記帳練習ニ重キヲ置キ又生徒ヲシテ例題ヲ作ラシムヘシ
- 四 商業算術及簿記ニ於ケル計算ノ際珠算ヲ練習セシムヘシ
- 五 臨時生徒ヲシテ其ノ地方ノ商業機關・商況・貨物ノ集散・交通機關等ニ就キ實地調査セシムヘシ



師範學校教授要目中改正

明治四十三年十月二十五日  
文部省訓令第二十二號

北海道廳 府縣

明治四十三年文部省訓令第十三號師範學校教授要目中左ノ通改正ス

- 一、歴史本科第一部第一學年「神代」ヲ「神代、皇基ノ遼遠」ニ改ム
- 一、同「朝鮮、三韓、三國ノ分立、韓土ノ内附、文物ノ傳來」ヲ「三韓、任那及三國、神功皇后、文物ノ傳來」ニ改ム
- 一、同「大陸トノ交通」ノ下「韓土ノ叛服」ヲ「韓土ノ變遷」ニ改ム
- 一、同「韓土ノ離叛、蝦夷ノ服屬」ヲ「蝦夷ノ服屬、韓土ノ變遷」ニ改ム
- 一、同「明トノ交通」ノ下ニ「高麗ト朝鮮」ヲ加フ
- 一、同「豊臣秀吉ノ海内統一」ヲ「豊臣秀吉」ニ改ム
- 一、同「朝鮮ノ建國」ヲ削ル
- 一、同第三學年「戰後ノ經營、韓國ノ保護、世界平和ノ保障、世界ニ於ケル日本ノ地位」ヲ左ノ如ク改ム

戰後ノ經營、韓國ノ保護

韓國併合、世界平和ノ保障

世界ニ於ケル日本ノ地位

一、地理本科第一部第一學年

「樺太、臺灣ノ項ニ準ス  
日本地理總說

」ヲ左ノ如ク改ム

樺太

臺灣ノ項ニ準ス

朝鮮

臺灣ノ項ニ準ス

日本地理總說

一、同「韓國地理

臺灣ノ項ニ準ス」削除

一、法制及經濟本科第一部法制中

「内閣總理大臣、各省大臣、地方長官  
統監、關東都督」ヲ「中央官廳  
地方官廳」ニ改ム

師範學校教授要目中改正

明治四十三年十二月二十日  
文部省訓令第二十五號

北海道廳 府縣

明治四十三年文部省訓令第十三號師範學校教授要目中左ノ通改正ス

- 一、物理及化學本科第一部男生徒ノ部第二學年化學「なとりうむ・かりうむ及其ノ化合物あむもにうむ化合物」ノ目ヨリ「銅・水銀・銀・金・白金及其ノ化合物」ノ目ニ至ル各目ヲ削ル
- 一、同第三學年化學「沼氣 えちれん あせちれん 石油」ノ目ヨリ「蛋白質」ノ目ニ至ル各目ヲ前項「なとりうむ・かりうむ及其ノ化合物 あむもにうむ化合物」ノ目ヨリ「銅・水銀・銀・金・白金及其ノ化合物」ノ目ニ至ル各目ニ改ム
- 一、同第三學年「凡四十五時」ヲ「凡四十時」ニ「凡六十五時」ヲ「凡七十時」ニ改ム
- 一、同第四學年「物理」ノ前ニ左ノ如ク加フ

化學 凡四十時

沼氣 えちれん あせちれん 石油

あるこーる えーてる あるでひど けとん

有機酸



脂肪及油  
炭水化物

こゝるたゝる べんぜん あにりん 色素

てるべん

あるかるいど

蛋白質

術語、定律、假説等ハ教授ノ際適當ナル場合ニ之ヲ説明スヘシ

一、同第四學年「物理」ノ下ニ「凡百二十時」ヲ加フ

**師範學校規程中改正**

明治四十四年一月十三日  
文部省令第二號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

第四十七條

師範學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**高等師範學校規程中改正**

明治四十四年四月七日  
文部省令第十九號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第十一條 高等師範學校ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

專攻科ノ修業年限、學部及其ノ科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

前條ノ規定ハ專攻科ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條中「本科」ノ下ニ「又ハ專修科」ヲ加フ

第十四條中「三箇年」ヲ「四箇年」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**高等師範學校卒業生服務規則中改正**

明治四十四年四月七日  
文部省令第二十號

明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

第五條及第六條中「研究科」ノ下ニ「專攻科」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校教授要目中改正**

明治四十四年三月十四日  
文部省令第一號

明治四十三年文部省訓令第十三號師範學校教授要目中左ノ通改正ス

歴史本科第一部男生徒ノ部日本ノ歴史第一學年「兩皇統ノ交立」ヲ「朝廷ト幕府」ニ「建武中興」ヲ「建武中興 足利尊氏ノ

反」ニ「南北朝」ヲ「吉野ノ朝廷」ニ改ム



臨時教員養成所規則中改正

明治四十五年三月九日  
文部省令第四號

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規則中左ノ通改正ス

第七條ノ二 家事科ノ學科目ハ修身、教育、家事、裁縫、國語、應用理科、手藝、圖畫、體操トス

第十一條但書中「中學校」ノ次ニ「高等女學校」ヲ加フ

第十一條ノ二 管理者ニ於テ特別ノ必要アリト認メタルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内家事科ニ限り其ノ生徒ノ

一部ノ教育ヲ教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ委託スルコトヲ得

前項委託ニ關スル細則ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ管理者之ヲ定ムヘシ

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所卒業生服務規則ヲ定ム

明治四十五年三月十八日  
文部省令第八號

臨時教員養成所卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

臨時教員養成所服務規則

第一條 臨時教員養成所卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

一、學資ノ補給ヲ受ケタル者 修業年限三箇年ノモノハ三箇年  
修業年限二箇年ノモノハ二箇年

二、學資ノ補給ヲ受ケサル者 修業年限三箇年ノモノハ二箇年  
修業年限二箇年ノモノハ一箇年

第二條 臨時教員養成所卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ就職スル義務ヲ有ス

一、學資ノ補給ヲ受ケタル者 修業年限三箇年ノモノハ二箇年  
修業年限二箇年ノモノハ一箇年

二、學資ノ補給ヲ受ケサル者ハ一箇年

第三條 臨時教員養成所卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル者ハ其ノ理由ヲ具シ當該

臨時教員養成所管理者又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ當該臨時教員養成所管理者又ハ地方長官ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ

進達スヘシ

第四條 臨時教員養成所卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ文部大臣ノ指揮ニ依リ學資ノ補給ヲ受

ケタル者ニアリテハ授業費及在學中支給セラレタル學資、學資ノ補給ヲ受ケサル者ニ在リテハ授業費ヲ償還セシム但

シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第一條ノ義務ヲ履行セサル者

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ臨時教員養成所管理者之ヲ定ムヘシ

第五條 臨時教員養成所卒業生ニシテ服務年限中高等師範學校研究科專攻科女子高等師範學校研究科又ハ帝國大學分科

大學等ニ入學セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第六條 臨時教員養成所卒業生ニシテ第三條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ高等師範學校研究科

專攻科女子高等師範學校研究科又ハ帝國大學分科大學等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算

入セス

第七條 臨時教員養成所卒業生中臨時教員養成所規程第十一條ノ二ニ依リ委託セラレタル者ハ本則ノ關係ニ於テハ學資

ノ補給ヲ受ケサル者ト看做ス



附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規程中卒業者服務ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
本令施行以前ニ入學シタル者ノ卒業後ニ於ケル服務ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

師範學校規程中改正

明治四十五年六月二十一日  
文部省令第十五號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

第二十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

男生徒ニ就キテハ體操中ニ擊劍及柔術ヲ加フルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校生徒募集規則中改正

明治四十五年七月十九日  
文部省令第十七號

明治三十年文部省令第十號高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

高等師範學校豫科生及專修科生ハ師範學校官公立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ當該學校長ノ薦舉ニ依リ高等師範學校長試験ノ上之ヲ選拔ス但シ高等師範學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ地方長官ノ薦舉ニ依リ試験ヲ須ヒスシテ之ヲ選拔ス

ルコトヲ得

前項ノ試験ハ當該學校ノ屬スル地方廳所在地ニ於テ行ヒ東京府ヲ除ク外地方長官之ヲ監督ス

第一條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

第二條 高等師範學校豫科生ハ毎年一回、專修科生ハ臨時之ヲ募集シ其ノ都度高等師範學校長ニ於テ之ヲ公告ス但シ第一條第一項但書ノ場合ニ於テハ高等師範學校ハ薦舉ノ期日及員數等ヲ地方長官ニ通知スヘシ

第五條中「私費專修生」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

明治四十五年七月十九日  
文部省令第十八號

明治三十年文部省令第二十二條女子高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

女子高等師範學校豫科生本科生及專修科生ハ師範學校、高等女學校本科卒業者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ當該學校長ノ薦舉ニ依リ女子高等師範學校長試験ノ上之ヲ選拔ス但シ女子高等師範學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ地方長官ノ薦舉ニ依リ試験ヲ須ヒスシテ之ヲ選拔スルコトヲ得

前項ノ試験ハ當該學校ノ屬スル地方廳所在地ニ於テ行ヒ東京府ヲ除ク外地方長官之ヲ監督ス

第一條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

第二條 女子高等師範學校豫科生及本科生ハ毎年一回、專修科生ハ臨時之ヲ募集シ其都度女子高等師範學校長之ヲ公告ス但シ第一條第一項但書ノ場合ニ於テハ女子高等師範學校長ハ薦舉ノ期日及員數等ヲ地方長官ニ通知スヘシ



第五條中「私費専修生」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校本科生徒病類別患者表中改正**

明治四十五年一月二十六日  
文部省訓令第一號

明治三十四年文部省訓令第三號師範學校本科生徒病類別患者表様式中「全身病」ノ部「腸チフス」ノ項ノ次ニ「バラチフス」ノ項ヲ加ヘ疾病番號ヲ順次繰下ク

本令ノ調査ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行スヘシ

**師範學校規程中改正**

大正二年二月二十七日  
文部省令第二號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス  
第二十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

體操ハ體操、教練及遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校規程中改正**

大正二年七月二十五日  
文部省令第二十一號

小學校令施行規則第二十八條、中學校令施行規則第十九條、高等女學校令施行規則第二十六條及師範學校規程第四十三

條中「天長節」ヲ「天長節祝日」ニ改ム

**師範學校規程中改正**

大正二年九月十三日  
文部省令第二十六號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第五十四條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

前項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ死去シタルトキ並市町村立小學校又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在ル者ニシテ在職中職務ノ爲死去シタルトキハ其ノ子ニ關シ前項ノ規定ヲ準用ス

**直轄諸學校官制中改正**

大正三年六月十七日  
勅令第百二十三號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第二條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第十八條中「高等中學校」「東京教育博物館主事」及「專門學部主事」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**女子高等師範學校規程中改正**

大正三年三月三日  
文部省令第五號

女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス



第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、家事科トス

第二條 文科ノ學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歴史、地理、外國語、家事、音樂、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、教育、數學、物理、化學、鑛物及地質、植物、動物、生理及衛生、外國語、家事、圖畫及手工音樂、體操トス

家事科ノ學科目ハ修身、教育、理科、家事、裁縫、手藝、手工、園藝、圖畫、國語、外國語、數學、音樂、體操トス

家事科ハ之ヲ分チテ第一部及第二部トナスコトヲ得

學校長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前各項ノ學科目ヲ加除スルコトヲ得

第三條中「前二條」ヲ「前條」ニ改ム

第五條 女子高等師範學校各學科ノ修業年限ハ四箇年トス

第六條 削除

第十條第一項中「第一條及」ヲ削ル

第十二條第一項中「東京女子高等師範學校文科、理科、技藝科、又ハ奈良女子高等師範學校本科各部中」ヲ「各學科中」ニ

同條第二項中「教育學」ヲ「教育」ニ改ム

第十三條中「二箇年」ヲ「一箇年」ニ改ム

附 則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ學校長ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

### 高等師範學校規程中改正

大正四年二月二十二日  
文部省令第四號

高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科トス

前項學科ノ外特科トシテ東京高等師範學校ニ體育科、廣島高等師範學校ニ教育科ヲ置クコトヲ得

第二條 文科ノ學科目ハ修身、教育學、心理學、論理學、國語、漢文、英語、地理、歴史、法制經濟、哲學、言語學、數學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、教育學、心理學、論理學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、鑛物學、地質學、農學、地理、天文氣象、圖畫、手工、國語、英語、體操トス

文科及理科ハ生徒ノ主トシテ學習スル學科目ニ依リ各數部トナスコトヲ得

學校長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前各項ノ學科目ヲ加除スルコトヲ得

第三條 文科及理科ノ修業年限ハ四箇年トス

第三條ノ二 削除

第五條 高等師範學校ニ研究科ヲ置クコトヲ得

第六條 體育科教育科及研究科ノ修業年限學科目等ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

第七條 上級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシム

第九條第二項ヲ削ル

附 則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



本令施行以前ニ入學シタル者ニ就テハ仍從前ノ規程ニ依ル但シ學校長ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

師範學校規程中改正

大正四年三月二十日  
文部省令第五號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

四 身體ノ强健ヲ圖ルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素體育及衛生ニ留意シ以テ健康ヲ增進セシメンコトヲ要ス

第四條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ男生徒ニ就キテハ一箇年以内延長スルコトヲ得

第十八條第一項中「知識ヲ得シメ」ノ次ニ「且小學校ニ於ケル家事教授ノ方法ヲ會得セシメ」ヲ加ヘ第二項中「事項ヲ授クヘシ」ヲ「事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ」ニ改ム

第二十七條甲號表中教育並國語及漢文ノ各欄ヲ左ノ如ク改ム

教 育									
國語及漢文	一〇	六	四	三	四	三	九	三	二
教育實習									

同條乙號表中教育、國語及漢文、家事、裁縫、英語並計ノ各欄ヲ左ノ如ク改ム

教 育									
國語及漢文	九	六	四	三	四	三	九	三	二
教育實習									

家 事									
裁 縫	四		五	五	四	四		三	二
英 語		(二)	(二)	(二)	(二)	(二)		(二)	(二)
計	三一	三二	(三四)	三二	(三四)	三二	(三四)	三二	(三四)

第二十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ土地ノ情況ニ依リ隨意科目トシテ農業商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フルコトヲ得其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ一科目ヲ學習セシムヘシ

第二十九條但書中「又隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得」ヲ削ル

第三十一條中「且修業年限一箇年ノ學科ヲ修ムル生徒」ヲ「且男生徒及修業年限一箇年ノ女生徒」ニ改ム

第三十二條中「又平易ナル」ヲ「又便宜平易ナル」ニ改ム

第三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ家事ノ教授法ヲ授クヘシ

第三十九條 法制及經濟、手工、音樂、體操、農業、商業ハ第十七條、第二十二條乃至第二十六條ニ準シ之ヲ授クヘシ

第四十條甲號表中「第一學年」ヲ「第一學年及第二學年」ニ改メ「體操」ノ欄ノ次ニ「農業又ハ商業」ノ欄ヲ加フ

同表欄外ニ左ノ如ク加フ

修業年限ヲ一箇年以上ニ延長シタル場合ニ於テハ教育ノ每週教授時數ヲ減シ便宜他ノ學科目ニ充ツルコトヲ得

農業又ハ商業ヲ加フルトキハ每週二時以内ニ於テ他ノ學科目ノ每週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

同條乙號表中國語及漢文、博物物理及化學、裁縫並計ノ各欄ヲ左ノ如ク改メ英語ノ欄ヲ削ル



國語及漢文	六	四
博物	三	四
物理及化學	四	四
裁縫	四	四
計	三四	三四

第四十五條第一項中「裁縫」ヲ「法制及經濟」ニ改メ第二項中「法制及經濟」ヲ「裁縫」ニ改ム  
 第四十九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別ノ事情アルトキハ女生徒ニ限り高等小學校第一學年ヲ修了シタル者又ハ年齡十三年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

第五十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別ノ事情アルトキハ女生徒ニ限り修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

第五十九條ノ二中「第五十四條ノ二」各號ノ一ニ該當スル者ノ子」ヲ「第五十四條ノ二ニ該當スル者」ニ「第五十四條ノ二」但書ハ」ヲ「第五十四條ノ二第一項但書ハ」ニ改ム

第六十一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事スルコトヲ得

第六十三條 第六十一條及第六十二條ノ公費卒業生トハ學費トシテ在學中ヲ通シ食費及被服費ノ全部又ハ之ニ相當スル額ノ支給ヲ受ケタル者ニ限ル

前項ノ學費中其ノ一部ノ支給ヲ受ケタル公費卒業生ノ服務期間ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第五十九條ノ二ノ規定ニ依リ學費ノ額ヲ增加セラレタル者ノ服務期間ニ關シテハ學費ノ額ヲ增加セラレサルモノト看做ス

第六十四條 特別ノ事情アルトキハ服務期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣、朝鮮、臺灣、樺太若ハ關東州

ニ於テ就職シ又ハ本邦兒童ノ爲外國ニ於テ小學校令ノ旨趣ニ準シテ設立セル學校ノ教員ノ職ニ從事スルコトヲ得

前項ノ在職期間ハ服務期間ト看做ス

第六十五條第二項中「在學中第六十一條及第六十二條ノ義務」ヲ「在學中服務義務」ニ「第六十一條及第六十二條ノ義務」ハ之ヲ免除ス」ヲ「猶豫中ノ服務義務」ハ之ヲ免除ス」ニ改ム

第六十六條中「第六十一條及第六十二條ノ」ヲ「服務」ニ「免除スルコトヲ得」ヲ「猶豫シ又ハ免除スルコトヲ得」ニ改ム

第六十七條中「第六十一條及第六十二條ノ」ヲ「服務」ニ改ム

第六十七條但書中「女生徒」ヲ「置キタル師範學校ニ於テハ」ヲ「土地ノ情況ニ依リ」ニ改ム

第六十七條中「校舍」ヲ「位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更ヲナシタルトキ若ハ校舍」ニ改ム

附 則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ニ就キテハ仍從前ノ規程ニ依ル但シ地方長官ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

師範學校規程中改正

大正四年十月三十日  
 文部省令第十五號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第六十一條第四號中「第二部卒業生」ヲ「第二部公費卒業生」ニ改ム

同條第四號ノ次ニ左ノ如ク加フ



五、第二部私費卒業者在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ一箇年

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

廣島高等師範學校規則並同校生徒募集方法中改正

(大正四年三月十三日)

○學 事

○廣島高等師範學校規則並同校生徒募集方法中改正 廣島高等師範學校ニ於テ今般同校規則並同校生徒募集方法中左ノ通改正セリ

(文部省)

廣島高等師範學校規則

第一章 目的

第一條 本校ハ師範學校、中學校、高等女學校ノ教師タルヘキ者ヲ養成シ兼テ普通教育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第二章 學科及修業年限

第二條 學科ヲ分チテ文科及理科トシ文科及理科ヲ更ニ分チテ各三部トス

前項學科ノ外特科トシテ教育科ヲ置ク

第三條 文科第一部ノ學科目ヲ修身、教育學、國語、漢文、論理學、生物學、心理學、哲學、英語、歷史、言語學、法制經濟、體操トシ國語、漢文ヲ主要科目トス

文科第二部ノ學科目ヲ修身、教育學、英語、論理學、生物學、心理學、哲學、國語及漢文、歷史、言語學、法制經濟體操トシ英語ヲ主要科目トス

文科第三部ノ學科目ヲ修身、教育學、歷史、法制經濟、地理學、論理學、生物學、心理學、哲學、國語及漢文、英語體操トシ歷史、法制經濟ヲ主要科目トス

理科第一部ノ學科目ヲ修身、教育學、數學、物理學、論理學、生物學、心理學、天文氣象、化學、國語、圖畫及手工體操トシ數學、物理學ヲ主要科目トス

理科第二部ノ學科目ヲ修身、教育學、物理學、化學、論理學、心理學、數學、天文氣象、生物學及鑛物學、國語、英語、圖畫及手工、體操トシ物理學、化學ヲ主要科目トス

理科第三部ノ學科目ヲ修身、教育學、地理學、地質學及鑛物學、動物學及生理學、植物學、論理學、心理學、測量、天文氣象、化學、國語、英語、數學、圖畫、體操トシ地理學、博物學ヲ主要科目トス

教育科ノ學科目ヲ修身、教育學、論理學、生物學、心理學、哲學、法制經濟、體操トス

文科理科各部ニアリテハ各其主要學科目及教育學ノ中ニ就キ生徒ヲシテ其一ヲ選ビ之ヲ精究セシム但シ教育學ヲ精究スルモノニハ修身ヲ併セ修メシム

教育科ニアリテハ生徒ノ志望ニヨリ其所定學科目ノ外文科理科所定ノ學科目中ニ就キ一科目又ハ數科目ヲ選ビ之ヲ修メシムルコトアルヘシ

前各項ノ學科目ノ外別ニ生徒ノ志望ニヨリ文科ニアリテハ獨語・佛語・習字・圖畫・音樂・武道、理科ニアリテハ法制經濟・農學・獨語・音樂・武道ノ中二科目以内ヲ修メシム

第四條 高等師範學校卒業者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ本校所定ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク

第五條 修業年限ハ文科、理科各四箇年教育科二箇年研究科一箇年乃至二箇年トス

(以下略ス)



廣島高等師範學校生徒募集方法

入學志願者資格

第一條 文科及理科生徒ハ師範學校又ハ官公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校優等ノ卒業者ニシテ年齢二十五年以下ノ者ヨリ地方長官之ヲ薦舉シ其中ニ就キ學校長之ヲ選拔スルモノトス但シ在學中徵兵義務ニ服スヘキ者ハ薦舉スルコトヲ得ス(本條年齡ハ入學スヘキ年ノ三月三十一日現在ニヨリ算定ス)

師範學校ノ卒業者ニシテ在學中外國語ノ學科目ヲ課セラレサルモノニアリテハ該學科目ニ關シテ師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニアラサレハ薦舉スルコトヲ得ス

第二條 師範學校又ハ中學校ニ在學スル優等者ニシテ該學年三月末ニ卒業スヘキ見込アリト當該學校長ノ豫定スル者ニ限リ前條卒業者ニ準スルコトヲ得但シ本文ニヨリ薦舉セラレタル者ニシテ卒業試験ニ落第シタル時ハ其薦舉ヲ無効トス

第二條ノ二 教育科生徒ハ師範學校、中學校、高等女學校ノ某學科教員免許狀ヲ有スル者ニシテ第一條ノ學校卒業者又ハ之ト同等ノ素養アリト認ムル者ニ就キ學校長之ヲ選拔スルモノトス

師範學校及中學校ノ卒業者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノニシテ小學校本科正教員免許狀ヲ有シ二箇年以上普通教育ノ職務ニ従事セルモノハ試験ノ上之ヲ選拔スルコトアルヘシ

(以下略ス)

高等師範學校生徒募集規則中改正

大正五年一月十七日  
文部省令第一號

高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條中「豫科生」ヲ「文科生、理科生」ニ改ム

第二條中「豫科生」ヲ「文科生及理科生」ニ改ム

第五條中「私費研究生」ヲ「教育科生、體育科生、私費研究生」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校卒業生服務規則中改正

大正五年一月十七日  
文部省令第二號

高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

本規則中「本科」トアルヲ「文科、理科及體育科」ニ改ム

附 則

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

大正五年一月十七日  
文部省令第三號

女子高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條中「豫科生本科生」ヲ「文科生、理科生、家事科生」ニ改ム

第二條中「豫科生及本科生」ヲ「文科生、理科生及家事科生」ニ改ム



附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**女子高等師範學校卒業生服務規則中改正**

大正五年一月十七日  
文部省令第四號

女子高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

本規則中「本科」トアルヲ「文科、理科及家事科」ニ改ム

附 則

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

**臨時教員養成所規程中改正**

大正七年二月二十日  
文部省令第二號

臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第一條中「家事科」ヲ「家事裁縫科、體操家事科」ニ改ム

第七條ノ二中「家事科」ヲ「家事裁縫科」ニ改ム

第七條ノ三 體操家事科ノ學科目ハ修身、教育、家事、體操、理科、國語、音樂トス

第十一條ノ二中「家事科」ヲ「家事裁縫科」ニ改ム

附 則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際第十一條ノ二ノ規定ニ依リ現ニ其ノ教育ヲ委託セラレタル家事科生徒ハ之ヲ家事裁縫科ノ生徒ト看做ス

**師範學校物理及化學生徒實驗要目制定**

大正七年二月五日  
文部省訓令第一號

北海道廳 府縣

理化學ノ研究ヲ獎勵シ其ノ知識ノ普及ヲ圖リ以テ殖産興業其ノ他苟モ國力ノ充實ニ資スヘキ事業ノ健全ナル發達ヲ期スルハ實ニ今日ノ急務タリ各學校ニ於テハ固ヨリ夙ニ此ノ趣旨ニ基キ理化學教授ニ努ムル所アリト雖國家ノ將來ニ積フレハ一層其ノ教授方法ヲ改善シ特ニ重キヲ實驗ニ置キ努メテ形式ニ流レ注入ニ陥ルノ弊ヲ防キ以テ國民生活ノ實際ニ適切ナル知識技能ヲ確實ニ會得セシメ兼テ獨創自發ノ精神ヲ涵養センコトヲ要ス

此ノ目的ヲ貫徹セシメンカ爲メ師範學校中學校ニ於ケル物理化學ノ生徒實驗ニ關スル設備ニ對シ國費ヲ支出シテ其ノ完成ヲ助クルト共ニ茲ニ該科生徒實驗要目ヲ制定セリ地方長官ハ宜シク各學校長ヲ督勵シ本要目ニ準據シテ生徒ニ實驗ヲ課シ以テ理化學教授ノ效果ヲ完ウスルニ於テ遺憾ナキヲ期セシメラルヘシ

**師範學校物理及化學生徒實驗要目**

**本要目實施上ノ注意**

- 一、本要目ニ掲ケタル事項及其ノ順序ハ學校ノ設備其ノ他ノ事情ニ依リ適宜斟酌ヲ加フルモ妨ナシ
- 二、生徒ノ實驗ハ教授ト相關聯シテ課スルヲ可トス
- 三、危險ノ虞アル實驗及劇藥等ノ取扱ハ生徒ノ實驗ヲ習熟セサル時期ニ於テハ成ルヘク之ヲ避ケシムヘク又之ヲ課スル際ニハ特ニ周到ナル注意ヲ要ス
- 四、火災ノ危險竝生徒衛生上ノ危害ノ豫防等ニ就キテハ設備上ニ十分ナル注意ヲ拂フヘシ

物 理

男生徒ノ部



長さノ測定  
體積ノ測定

水ノ深サト壓力トノ關係  
あるきめですノ原理

固體ノ比重測定

液體ノ比重測定

ぼいるノ定律

ふつくノ定律

力ノ能率

力ノ平行四邊形

重心

斜面附仕事ノ原理

振子

重力ノ加速度測定

寒暖計ノ二基點ノ檢査

膨脹

蒸發及露點

溫度ト蒸汽張力トノ關係

固體ノ比熱測定

寒劑

音ノ速サノ測定

氣柱ノ共鳴附波長及音又ノ振動數測定

光度ノ測定

平面鏡ノ像及反射ノ定律

凹面鏡

屈折率測定

凸れんず

蟲眼鏡ノ倍率測定

れんずノ組合セ

すべくとる

磁石

靜電氣

電池附電動力

電流ト磁石トノ關係

それのいど及電磁石

おーむノ定律及導線ノ電氣抵抗

感應電流

電流ノ發熱作用附じゆるノ定律



電燈

だいなも及もーとる

簡易蓄電池ノ充電ト放電

本科第一部ニ於テハ以上ノ外更ニ小學校理科教授上必要ナル實驗及器械製作ヲ課スヘシ

本科第二部ニ於テハ本科第一部ニ準シテ小學校理科教授ニ必要ナル實驗及器械製作ヲ課スヘシ

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

化學

男生徒ノ部

硝子細工及こるくノ取扱

水ノ濾過及蒸溜

固體ノ溶解及溶解度

金屬ヲ空氣中ニテ熱スル時ノ變化

空氣ノ組成

酸素ノ製法・性質

水素ノ製法・性質

鹽化水素ノ製法・性質

酸、鹽基、酸ト鹽基トノ中和、鹽

無定形炭素

燐

無水炭酸ノ製法・性質

燃燒並呼吸ニ依リテ生スル炭酸瓦斯

硫黃

硫化水素ノ製法・性質

無水亞硫酸ノ製法・性質

硫酸

鹽素ノ製法・性質

臭素及沃素ノ製法・性質

あむもにヤノ製法・性質

硝酸

磷及磷酸鹽

無水亞砒酸

電解質ト非電解質

複分解ニ於ケル化學的平衡

重炭酸そーだ及炭酸そーだ

灰汁ヨリ粗炭酸かりノ採取

酸素ノ二二・四立ノ重量

炭酸石灰、生石灰、消石灰、石灰水



硬水、軟水

漂白粉、漂白

あるみにうむ、明礬

水素トまぐねしうむトノ化學當量

亞鉛及其ノ重要ナル化合物

鉛及其ノ重要ナル化合物

鐵及其ノ重要ナル化合物

銅、硫酸銅、結晶水

水銀及其ノ重要ナル化合物

硝酸銀、電鍍

白金ノ接觸作用

普通金屬ノいおん化傾向ノ比較

燂色反應及還元ニ依ル金屬ノ檢出

主ナルいおんノ檢出

飲料水ノ檢査

木材或ハ石炭ノ乾溜

あせちりん

澱粉及糖類

あるこーる

食酢及果實中ノ酸ノ定量

えすてる

脂肪・油及石鹼

汚點拔キ

衣服ノ材料

蛋白質ノ反應

牛乳ノ主要成分

小麥粉ノ主要成分

茶ノ主要成分

黒色いんき

藍及ありざりん

簡易ナル染色

本科第一部ニ於テハ以上ノ外更ニ小學校理科教授上必要ナル實驗及器械製作ヲ課スヘシ

本科第二部ニ於テハ本科第一部ニ準シテ小學校理科教授ニ必要ナル實驗及器械製作ヲ課スヘシ

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

中學校物理及化學生徒實驗要目

本要目實施上ノ注意

一、本要目ニ掲ケタル事項及其ノ順序ハ學校ノ設備其ノ他ノ事情ニ依リ適宜斟酌ヲ加フルモ妨ナシ但シ事項ノ省略ヲナ



ス場合ニ於テハ×印ヲ附シタルモノノ中ヨリ之ヲナスヘシ  
 二、生徒ノ實驗ハ教授ト相關聯シテ課スルヲ可トス  
 三、危險ノ虞アル實驗及劇藥毒藥等ノ取扱ハ生徒ノ實驗ニ習熟セサル時期ニ於テハ成ルヘク之ヲ避ケシムヘク又之ヲ課スル際ニハ特ニ周到ナル注意ヲ要ス  
 四、火災ノ危險並生徒衛生上ノ危害ノ豫防等ニ就キテハ設備上ニ十分ナル注意ヲ拂フヘシ

物 理

- 長サノ測定
- 體積ノ測定
- 水ノ深サト壓力トノ關係
- あるきめですノ原理
- 固體ノ比重測定
- 液體ノ比重測定
- ぼいるノ定律
- ×ふつくノ定律
- ×力ノ能率
- 力ノ平行四邊形
- ×重心
- 斜面附仕事ノ原理
- 振子

- ×重力ノ加速度測定
- 寒暖計ノ二基點ノ檢査
- 膨脹
- 蒸發及露點
- 溫度ト蒸汽張力トノ關係
- 固體ノ比熱測定
- 寒劑
- ×音ノ速サノ測定
- 氣柱ノ共鳴附波長及音叉ノ振動數測定
- ×光度ノ測定
- 平面鏡ノ像及反射ノ定律
- ×凹面鏡
- 屈折率測定
- 凸れんず
- 蟲眼鏡ノ倍率測定
- れんずノ組合セ
- すべくとる
- 磁石
- 靜電氣



電池附電動力

電流ト磁石トノ關係

そのいど及電磁石

おゝむノ定律及導線ノ電氣抵抗

感應電流

×電流ノ發熱作用附じゆるノ定律

×電燈

だいなも及もゝとる

×簡易蓄電池ノ充電ト放電

化學

硝子細工及こるくノ取扱

水ノ濾過及蒸溜

固體ノ溶解及溶解度

×金屬ヲ空氣中ニテ熱スル時ノ變化

空氣ノ組成

酸素ノ製法・性質

水素ノ製法・性質

鹽化水素ノ製法・性質

酸、鹽基、酸ト鹽基トノ中和、鹽

無定形炭素

燐

無水炭酸ノ製法・性質

燃燒並呼吸ニ依リテ生スル炭酸瓦斯

硫黃

硫化水素ノ製法・性質

無水亞硫酸ノ製法・性質

硫酸

×鹽素ノ製法・性質

×臭素及沃素ノ製法・性質

あむもにやノ製法・性質

硝酸

×磷及磷酸鹽

×無水亞砒酸

×電解質ト非電解質

×複分解ニ於ケル化學的平衡

重炭酸そゝだ

灰汁ヨリ粗炭酸かりノ採取

×酸素ノ二二・四立ノ重量



炭酸石灰、生石灰、消石灰、石灰水  
硬水、軟水

漂白粉、漂白

あるみにうむ、明礬

×水素トまぐねしうむトノ化學當量

×亞鉛及其ノ重要ナル化合物

鉛及其ノ重要ナル化合物

鐵及其ノ重要ナル化合物

銅、硫酸銅、結晶水

水銀及其ノ重要ナル化合物

硝酸銀、電鍍

×白金ノ接觸作用

普通金屬ノいおん化傾向ノ比較

燂色反應及還元ニ依ル金屬ノ檢出

×主ナルいおんノ檢出

×飲料水ノ檢査

木材或ハ石灰ノ乾溜

あせちりん

澱粉及糖類

あるこーる

×食酢及果實中ノ酸ノ定量

えすてる

脂肪・油及石鹼

×汚點拔キ

衣服ノ材料

蛋白質ノ反應

×牛乳ノ主要成分

×小麥粉ノ主要成分

×茶ノ主要成分

黒色いんき

藍及ありざりん

×簡易ナル染色

**師範學校職員服制ノ件廢止**

大正八年十月二十八日  
文部省訓令第十號

明治二十一年文部省訓令第二號ハ之ヲ廢止ス

**師範學校長勤績加俸令**

大正九年十月二十八日  
勅令第五百二十號

朕師範學校長勤績加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範學校長勤績加俸令



- 第一條 師範學校長ニシテ五年以上勤績スル者ニハ勤績加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第二條 勤績加俸ノ年額ハ別表ニ依ル
- 第三條 勤績加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル
- 第四條 勤績加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間勤績加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス  
 大正九年九月三十日現在ニ於テ勤績五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤績五年ニ達シタルモノト看做ス

(別表)

勤 績 年 數	勤 績 加 俸 年 額
五年以上十年未満	百八圓乃至百三十二圓
十年以上十五年未満	百五十六圓乃至百八十四圓
十五年以上	二百十六圓乃至二百七十六圓

高等師範學校生徒學資支給ニ關スル規程ヲ定ム

大正九年八月十一日  
 文部省訓令號外

東京高等師範學校、廣島高等師範學校

明治四十二年十二月發普三五三號高等師範學校生徒學資支給ニ關スル規程左ノ通定ム

高等師範學校生徒學資支給規程

第一條 高等師範學校ニ於テ支給スヘキ學資ハ專攻科生徒ニ在リテハ月額金參拾圓、其ノ他ノ生徒ニ在リテハ月額金貳拾五圓トス

第二條 學資支給ノ方法及人員ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

其ノ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

附 則

本規程ハ大正九年四月分ヨリ之ヲ適用ス

直轄諸學校官制中改正(抄)

大正十年十二月九日  
 勅令第四百五十六號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第十一條 第六條ニ掲クル職員ノ外高等師範學校及女子高等師範學校ニ教諭、助教諭及訓導ヲ、高等師範學校ニ助手ヲ、女子高等師範學校ニ保母ヲ置ク、

教諭ハ奏任トシ助教諭、訓導、助手及保母ハ判任トス

教諭及助教諭ハ附屬中學校又ハ附屬高等女學校ノ生徒ノ教育ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス  
 訓導ハ附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

助手ハ教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス保母ハ附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十三條 削除

第十四條 削除



第十五條 削除

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校規程中改正

大正十年二月十八日  
文部省令第二十號

高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條 「特科トシテ」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所規程中改正

大正十年三月十八日  
文部省令第二十號

臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第一條中「體操家事科」ノ下ニ「理科家事科」ヲ加フ

第七條ノ四 理科家事科ノ學科目ハ修身、教育、理科、家事、數學、體操、英語(隨意科目)トス

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校卒業生服務規則制定ノ件

大正十年四月二十六日  
文部省令第二十九號

高等師範學校等卒業生服務規則左ノ通定ム

高等師範學校等卒業生服務規則

第一條 本令ハ高等師範學校、女子高等師範學校、臨時教員養成所、東京美術學校圖書師範科及東京音樂學校甲種師範科卒業生ニ適用ス

第二條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

一、學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ修業年限ノ一倍半ニ相當スル期間

二、學資ノ支給ヲ受ケサル者ハ其ノ修業年限ノ二分ノ一ニ相當スル期間

前項ノ期間ハ二學科以上ヲ修メタル場合ニ於テハ通シテ八年ヲ超エス

第三條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間文部大臣ノ指定ニ從ヒ就職スルノ義務ヲ有ス但シ前條ノ義務一年未滿ナル場合ハ其ノ期間トス

一學科ヲ卒業シタル者ニシテ更ニ他ノ學科ヲ卒業シタルモノニ在リテハ後ノ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間前項ノ義務ヲ有ス

第四條 卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第二條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノハ其ノ理由ヲ具シ道府縣ニ在職スル者ニ在リテハ地方長官其ノ他ノ者ニ在リテハ出身學校長ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ地方長官又ハ學校長ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ

第二條ノ義務ヲ猶豫又ハ免除シタル場合ニ於テハ第三條ノ義務ハ之ト同時ニ猶豫又ハ免除セラレタルモノトス

第五條 卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ第一條ニ掲ケタル學校ノ學校長ニ於テ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ學資ノ支給ヲ受ケタル者ニ對シテハ授業費及在學中支給セラレタル學資、學資ノ支給ヲ受ケサル者ニ對シテハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第二條又ハ第三條ノ義務ヲ履行セサル者



二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者  
 前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ  
 第六條 卒業者ニシテ服務年限中研究科專攻科又ハ帝國大學學部等ニ入學セムトスルモノアルトキハ時宜ニ依リ許可ス  
 ルコトアルヘシ

第七條 卒業者ニシテ第四條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科專攻科若ハ帝國大學學部等ニ  
 入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ卒業者ニシテ未タ服務義務ヲ了ラサルモノノ服務年數ニ關シテハ本令ノ規定ニ依ル  
 大正九年度以前ノ入學者ニシテ從前ノ規定ニ依リ服務義務ナキモノノ服務ハ仍從前ノ例ニ依ル  
 明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業者服務規則、同年文部省令第二十七號女子高等師範學校卒業者服務  
 規則、明治四十三年文部省令第二號東京美術學校圖書師範科卒業者服務規則、同年文部省令第三號東京音樂學校甲種師  
 範科卒業者服務規則及明治四十五年文部省令第八號臨時教員養成所卒業者服務規則ハ之ヲ廢止ス

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

大正十年七月十四日  
文部省令第三十四號

女子高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條 第一項中「高等女學校本科卒業者」ノ次ニ「專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者及專門學校ノ  
 入學ニ關シ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル女學校ノ卒業者」ヲ加ヘ第四項中「師範學校及高等女學校」ヲ「師範學校高等女學  
 校及專門學校ノ入學ニ關シ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル女學校」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校規程中改正

大正十年八月五日  
文部省令第三十七號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第六十二條中ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十二條ノ二 一年現役兵トシテ服役スル期間ハ前二條ノ服務義務期間ニ算入セス

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所規程中改正

大正十一年四月十日  
文部省令第十六號

臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第一條中「理科家事科」ノ下ニ、「歴史地理科、理科、音樂科、體操科」ヲ加フ

第三條中「英語、歴史」ヲ「言語學、歴史、地理、英語(隨意科目)體操(隨意科目)」ニ改ム

第四條中「國語及漢文」ノ下ニ、「言語學、體操(隨意科目)」ヲ加フ

第五條中「英語、簿記」ノ下ニ、「英語、體操(隨意科目)」ヲ加フ

第六條 博物學ノ學科目ハ修身、教育、動物、植物、生理及衛生、鑛物及地質、英語、體操(隨意科目)トス

第七條中「英語、數學」「數學、圖書及手工、英語、體操(隨意科目)」ニ改ム

第七條ノ五 歴史地理科ノ學科目ハ修身、教育、歴史、地理、法制及經濟、英語、體操(隨意科目)トス



第七條ノ六 理科ノ學科目ハ修身、教育、物理、化學、動物、植物、生理及衛生、礦物及地質、體操、英語(隨意科目)トス

第七條ノ七 音樂科ノ學科目ハ修身、教育、唱歌、器學(オルガン又ハピアノ)、國語、音樂通論、和聲論、音樂史、英語(隨意科目)トス

第七條ノ八 體操科ノ學科目ハ修身、教育、體操、柔道又ハ劍道、生理及衛生、英語(隨意科目)トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**道府縣立師範學校長俸給國庫負擔ノ事**

大正十二年九月二十八日 勅令第四百三十號

朕道府縣立師範學校長俸給國庫負擔ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
道府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

附 則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校規程中改正**

大正十三年十月三十一日 文部省令第二十五號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第四十六條第二項中「増スヘシ」ヲ「増スヘシ體操ニ於テ擊劍及柔術ヲ加フル場合亦同シ」ニ改メ、同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
特別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内第一項ノ規定ニ依ル員數ヲ減スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**高等師範學校規程中改正**

大正十三年十一月二十二日 文部省令第二十八號

高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第十條 研究科ニ入學スヘキ者ハ高等師範學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニ就キ學校長之ヲ選拔ス

第十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

專修科ノ修業年限、學科目等ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校規程中改正**

大正十四年四月一日 文部省令第八號

師範學校規程中左ノ通改正ス

「第二章 豫備科及本科」ヲ「第二章 本科又專攻科」ニ改ム

第三條 專攻科ハ本科ノ學科目又ハ之ニ關聯スル學科目ニ付精深ナル程度ニ於テ學修ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第四條 本科第一科ノ修業年限ハ五年トス

本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一年、女生徒ニ就キテハ一年又ハ二年トス

專攻科ノ修業年限ハ一年トス

第五條 削除

第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歴史、地理、數學、博物、物理及化



學、法制及經濟、農業又ハ商業、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス

第七條中「物理及化學、一ノ下ニ「法制及經濟、」ヲ加ヘ第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項學科目ノ外隨意科目トシテ英語、農業又ハ商業ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第八條第三項ヲ削ル

第十條第二項中「近古」ヲ「近古ヨリ上古」ニ改ム

第十二條中「日本歷史」ヲ「國史」ニ、「外國歷史」ヲ「外國史」ニ改ム

第十四條第三項ヲ削ル

第十五條中「小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル」ヲ削ル

第十六條中「小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル」ヲ削ル

第十八條中「知識」ヲ「知識技能」ニ、「且教授法ヲ授クヘシ」ヲ「又實習ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ」ニ改ム

第二十五條中「且教授法ヲ授クヘシ」ヲ「又實習ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ」ニ改ム

第二十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

商業ハ商事要項、商業簿記等ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十七條 本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ル

ヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範

圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	二	二	二
國語及漢文	六	六	四	五	五
英語	五	三	三	三	三
歷史	二	二	三	三	二
地理	二	二	三	三	二
數學	四	四	四	三	三
博物學	二	二	二	一	三
物理及化學		三	三	三	三
法制及經濟				二	二
農業又ハ商業			二	二	二
習字	二	一	一		
圖畫	三	三	二	二	二
手工					
音樂	二	二	一	一	一
體操	五	五	五	四	四
計	三四	三四	三四	三四	三四



體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得  
教育實習ハ第五學年ニ於テ八週乃至十週專ラ之ヲ課スヘシ

乙號表

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	二	二	二
教育					五
國語及漢文	六	五	五	五	五
歷史	二	二	三	三	二
地理	二	二	三	三	二
數學	四	四	三	三	三
博物學	二	二	二	一	三
物理及化學		三	三	三	三
法制及經濟				二	二
家事				二	二
裁縫	四	四	三	二	二
習字	二	一	一		
圖畫	三	二	二	二	二
手工					

音樂	二	二	二	一	一
體操	三	三	三	三	三
英語	(三)	(三)	(三)	(二)	(二)
農業又ハ商業	(三)	(三)	(三)	(二)	(二)
計	(三四)	(三四)	(三四)	(三四)	(三四)

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

教育實習ハ第五學年ニ於テ八週乃至十週專ラ之ヲ課スヘシ

第二十八條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學

法制及經濟、農業又ハ商業、圖畫、手工、音樂、體操トス

農業學校ヲ卒業シタル生徒ニハ農業、商業學校ヲ卒業シタル生徒ニハ商業ヲ缺クコトヲ得

第二十九條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學

法制及經濟、家事、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス修業年限二年ノ場合ニ於テハ前項學科目ノ外隨意科目トシテ

英語、農業又ハ商業ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第三十條第二項ヲ削ル

第三十一條 教育ハ第九條ニ準シ心理ヲ授クル際教育ノ理論、教授ノ方法並保育法ヲ概説シ又近世教育史、學校管理法

學校衛生ノ大要ヲ授ケ且教授實習ヲ課スヘシ

第三十四條中「男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケ」ヲ削ル

第三十六條中第二項ヲ削ル



第三十七條中「裁縫ハ第十九條」ヲ「家事、裁縫ハ第十八條及第十九條」ニ改ム

第三十八條 圖畫、手工ハ第二十一條及第二十二條ニ準シ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル知識技能ヲ會得セシメ且教授

法ヲ授クヘシ

第三十九條 英語、法制及經濟、音樂、體操、農業、商業ハ第十一條、第十七條、第二十三條乃至第二十六條ニ準シ之

ヲ授クヘシ

第四十條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ修業年限ニ依リ

乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ學校長ハ第二十七條但書ニ準シ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科目	學年
修身	二
國語及漢文	八
歷史	三
地理	二
數學	二
博物學	二
物理及化學	二
法制及經濟	二

農業又ハ商業	圖畫	手工	音樂	體操	計
三	三	二	三	三	三
					三
					四

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

教育實習ハ卒業ニ近キ時期ニ於テ約八週專ラ課スヘシ

第二十八條第二項ノ規定ニ依リ農業又ハ商業ヲ缺キタル生徒ニハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スルコト

ヲ得

乙號表

學科目	學年
修身	二
國語及漢文	七
歷史	三
地理	二
數學	三



博	物	理	及	化	學	博	裁	家	法	制	及	經	濟	圖	手	音	體	計	
物	學	學	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得  
 教育實習ハ卒業ニ近キ時期ニ於テ約八週專ラ之ヲ課スヘシ

丙號表

學	科	目	學	年
國	語	及	漢	文
教	育	身	體	操
修	身	體	操	及
第一	學	年	第二	學
二	四	五	二	四
二	四	五	二	四

農	業	又	ハ	商	業	英	語	體	操	音	樂	手	工	圖	畫	裁	縫	家	事	法	制	及	經	濟	物	理	及	化	學	博	數	地	理	歷	史
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)
(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得  
 教育實習ハ卒業ニ近キ時期ニ於テ約八週專ラ之ヲ課スヘシ  
 第四十條ノ二 專攻科ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語及漢文、農業又ハ商業、體操トス



前項學科目ノ外英語、歴史及地理、數學、博物、物理及化學、圖畫及手工、音樂ノ中ヨリ其ノ數科目ヲ選修セシム  
 第四十條ノ三 專攻科ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語及漢文、家事及裁縫、體操トス  
 前條第二項ノ規定ハ專攻科ノ女生徒ニ就キ之ヲ適用ス  
 第四十條ノ四 專攻科ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

必修科目

學 科 目	男 生 徒		女 生 徒	
	時 數	備 考	時 數	備 考
修 身	二		二	
哲 學	三		三	
教 育	四		四	
國 語 及 漢 文	四		四	
農 業 又 ハ 商 業	五	(實習不定時)	五	(實習不定時)
家 事 及 裁 縫	二		二	
體 操	二		二	
選 擇 科 目	八一—二		八一—二	
計	二八一—三二		二八一—三二	
英 語				四

歷 史 及 地 理	四
數 學	四
博 物 學	四
物 理 及 化 學	四
圖 畫 及 手 工	四
音 樂	四

學校長ハ選擇科目ヲ適宜組合セ其ノ中ニ就キ生徒ヲシテ選修セシムルコトヲ得

第四十五條中「法制及經濟、」及「英語、」ヲ削ル

第四十六條第二項中「第一部男生徒」ヲ削リ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

專攻科ニ在リテハ教員ノ數ハ一學級ニ付二人以上トス

第四十八條中「豫備科及本科」ヲ「本科及專攻科」ニ改ム

第四十九條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等以上學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等以一ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ修業年限ヲ一年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限五年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者、修業年限ヲ二年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限四年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ當分ノ内修業年限ヲ一年ト爲シタル場合ニ於テ修業年限四年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之



ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

第五十一條 專攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ師範學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ第四十八條ノ資格ヲ具ヘ入學セムトスルトキハ學校長ハ他ノ志願者ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得但シ法定ノ推定家督相續人ニアラサル養子又ハ恩給法第五十八條第一項第二號ニ該當シ現ニ恩給ヲ停止セララルル者ノ子ハ此ノ限ニアラス

一 十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導又ハ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在リタル者ニシテ恩給法ニ依リ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者

二 官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在リタル者ニシテ恩給法第四十六條及第四十七條ノ規定ニ依リ普通恩給及增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者

三 十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在ル者

四 十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在リタル者ニシテ引續キ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ノ職ニ在ル者

前項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ死去シタルトキ並官公立ノ學校ノ訓導又ハ准訓導又ハ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在ル者ニシテ在職中職務ノ爲死去シタルトキハ其ノ子ニ關シ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條ノ二ヲ削ル

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ本科卒業證書ヲ、專攻科ヲ卒業シタル者ニ專攻科卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十九條ノ二中第[五十四條ノ二]ヲ[第五十四條]ニ改ム

第六十條第二項中[三拾圓]ヲ[五拾圓]ニ改ム

第六十一條 卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間其ノ道府縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ従事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ従事スルコトヲ得

一 公費卒業者ハ其ノ修業年限ノ一倍半ニ相當スル期間但シ八年ヲ超エス

二 私費卒業者ハ其ノ修業年限ノ二分ノ一ニ相當スル期間但シ一年ヲ下ラス

本科卒業者ニシテ引續キ專攻科ニ入り其ノ課程ヲ卒リタル者ニ在リテハ前項ノ期間ハ專攻科卒業證書受得ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條 卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間其ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ従事スル義務ヲ有ス

前條第二項ノ規定ハ本條ノ義務ニ關シ之ヲ準用ス

第六十二條ノ二中「一年現役兵トシテ服役スル期間」ヲ「專攻科ニ在學中ノ期間」ニ改ム

第六十三條中「及第六十二條」ヲ削リ「服務期間」ヲ「服務義務期間」ニ改ム

第六十四條中「服務期間」ヲ「服務義務期間」ニ改ム

第六十五條中「服務期間」ヲ「服務義務期間」ニ改ム

第六十六條中「本科」ヲ削ル

第六十七條中「本科卒業者ニシテ服務期間」ヲ「服務義務期間内」ニ改ム

第六十八條中「三拾圓」ヲ「五拾圓」ニ改ム



第六十九條中「裁縫科」ヲ「專科」ニ改ム  
第七十條中「二箇年」ヲ「二年」ニ「一箇年」ヲ「一年」ニ「裁縫科」ヲ「專科」ニ改ム  
第八十九條中「定性分析表」ヲ「定量分析表」ニ改ム  
第九十四條 削除

附 則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス專攻科ハ當分ノ内之ヲ設ケサルコトヲ得  
本令施行ノ際現ニ在學スル者ノ修業年限、學科目及其ノ每週教授時數等ニ就キテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ地方長官ニ  
於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

臨時教員養成所規則中改正

大正十四年五月六日  
文部省令第十六號

臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第二條中「二箇年乃至三箇年」ヲ「二年乃至三年」ニ改ム

第三條、第四條、第五條、第六條、第七條及第七條ノ五中體操ノ下「隨意科目」ニヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校規程中改正ノ要旨及施行上ノ注意事項

大正十四年四月一日  
文部省訓令第四號

北海道廳 府縣

師範學校規則ハ明治四十年ノ制定ニ係リ其ノ施行以來年ヲ閱スルコト已ニ十有八年其ノ間時勢ノ進歩ニ伴ヒ一部ノ改正

ヲ施スコト數次ニ及ヘリト雖最近ニ於ケル社會ノ趨勢ハ其ノ學科、教授ノ内容等ニ關シ從來ノ規定ヲ以テ満足スヘカラ  
サルニ至レリ是レ今回規程ノ主要部ニ對シテ改正ヲ加ヘタル所以ナリ因ツテ左ニ其ノ改正ノ要旨ヲ舉ケ且施行上特ニ注  
意スヘキ事項ノ大要ヲ示サム

抑モ國民ノ思想ヲ健全ナラシメ國家ノ産業ヲ發達セシメ其ノ他文化ノ宣揚政治ノ廓清等ヲ圖ラムトスルニハ皆其根柢ヲ  
小學校ノ教育ニ於テ培養スヘキハ論ヲ須タス時世ノ趨向ハ小學校ノ教育ニ對シテ益重要ノ意義ヲ加ヘムトス而シテ之カ  
振興ヲ期セムトスルニハ先ツ教員其ノ人ヲ得ルヲ以テ最大要件トナササルヲ得ス故ニ師範教育ヲ改善シテ從來ヨリモ一  
層優良ナル多數ノ教員ヲ養成スルハ當今ニ於ケル急務中ノ急務ト謂フヘシ今回改正ノ主旨ハ實ニ此ノ點ニ存ス

師範學校ノ學科ニ就キテハ本科ヲ第一部及第二部ニ分ツコト舊規程ト異ナル所ナシト雖第一部ノ修業年限ヲ五年トシ從  
來ノ豫備科ヲ廢止スルコトトセリ舊規程ニ依レハ師範學校第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫備科ヲ修了シタル者又ハ  
修業年限三年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齡十五年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トナセシカ現時豫備科  
ヲ設クル師範學校ハ九十九校中僅ニ二十一校ニ止マリ又修業年限三年ノ高等小學校ハ全國ニ於テ其ノ數甚少シ爲ニ修業  
年限二年ノ高等小學校ノ卒業中其ノ俊秀者ヲシテ師範學校入學ノ機會ヲ逸ゼシムルノ虞多シ更ニ他ノ一面ニ於テハ師  
範學校ヲシテ已ムヲ得ス高等小學校第三學年卒業程度以下ノ者ヲ本科ニ入學セシメ事實ニ於テ其ノ教育ノ程度ヲ低下ス  
ルノ場合ナキヲ保セス如上ノ缺陷ヲ救ハムカ爲ニハ各府縣ヲシテ師範學校ニ豫備科ヲ設置セシムルノ途ナキニアラサレ  
トモ若シ必之ヲ設置セシムルモノトセハ寧ロ之ヲ本科中ニ加ヘ後學年ト聯絡統一ヲ保タシムルニ如カス故ニ今回ノ改正  
ハ豫備科ヲ廢シ修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ  
シテ本科第一部ニ入學セシムルコトトシ且其ノ修業年限ヲ五年トナセリ

右ハ本科第一部ノ入學程度ヲ舊規程ヨリ一年低下シ修業年限ニ一年ヲ加ヘタルニ過キサルヲ以テ從來ノ教育ニ比シテ大  
差ナキノ觀アレトモ俊秀者ニ入學ノ便宜ヲ得シムルノミナラス第一學年ヨリ師範教育ノ本旨ヲ貫徹セシムルノ方針ニ依



リテ學科目ヲ定メ第二學年以上ニ在リテモ學科課程ニ改正ヲ加ヘタルヲ以テ生徒ノ德操識見ヲ養フノ點ニ於テ實質上從來ヨリ大ニ優ルモノアルヘシ尙且前ニ述ヘタル如ク事實上教育ノ程度ヲ低下スル如キハ今回ノ改正ニ依リテ之ヲ根絶スルコトヲ得ルナリ殊ニ女生徒ニ在リテハ舊規程ニ依リ高等小學校第一學年ヲ修了シタル者又ハ年齡十三年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ豫備科ニ、修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ本科第一部ニ入學スルコトヲ得シメタルヲ以テ女教員ノ素養ハ男教員ニ比シテ一般ニ大ニ劣レルノ嫌アリシカ今回ノ改正ハ女生徒入學ノ程度ヲ全ク男生徒ト同様ナラシメタルヲ以テ今後ハ從前ヨリモ一層優良ナル女教員ノ養成ヲ期スヘキナリ

本科第二部ニ就キテハ男生徒ノ修業年限ヲ一年ト定メ舊規程ノ更ニ一年ヲ延長シ得ルノ制ヲ廢セリ是レ今回新ニ設ケタル專攻科トノ關係ヨリ之カ改正ノ必要ヲ認メタルニ由ルナリ且從來男生徒ニ對シ修業年限二年ノ第二部ヲ設ケタル師範學校ハ全國ヲ通シテ唯一校アルニ過キス而モ其ノ生徒ハ今回ノ改正ニ依リ修業年限一年ノ第二部ヲ卒業シタル後更ニ專攻科ニ入學シテ其ノ課程ヲ修メシムルコトトセハ寧ろ修學上ニ利スル所多カルヘシ女生徒ノ修業年限ハ之ヲ一年又ハ二年トスルコト從來ト異ナラス尙修業年限一年ノ第二部ニハ當分ノ内修業年限四年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ノ入學ヲモ認メタリト雖是レ目下ノ實情已ムヲ得サルニ出テタルモノナレハ今後ハ成ルヘク此ノ種ノ生徒ノ修業年限ヲ二年トナシ以テ教育素質ノ向上ヲ期セムコトヲ希望ス

專攻科ハ修業年限ヲ一年トシ本科卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ精深ナル程度ニ於テ本科所定ノ學科目又ハ之ト關係アル學科目ニ就キテ學修セシムカ爲ニ設ケタルモノナリ尙專攻科ニ在リテハ教育者タルノ修養ヲ高ムルト同時ニ地方ニ於ケル實際ノ事情ヲ理解スルニ適當ナル學科目ヲ專攻セシムルヲ以テ從來ニ比シテ一層適良ナル教員ヲ養成シ得ヘシト信ス而シテ今回ノ改正ハ師範學校ニ於テ本科ト共ニ專攻科ヲ設ケシムルヲ主眼トスレトモ經費其ノ他ノ關係上必シモ本規程ノ改正ト同時ニ之ヲ設置スルヲ要セス漸ヲ逐ウテ之カ完成ヲ期セムトス

今回ノ改正ハ學科目及每週教授時數ニ對シテ加ヘタル箇條鈔カラズ本科第一部ノ學科目ニ就キテハ時代ノ變遷ト社會ノ趨勢トニ顧ミ男女生徒ヲ通シテ法制及經濟ヲ必修セシムルコトトセリ尙男生徒ニハ英語ヲ必修科目トシテ之ヲ課シ女生徒ニハ英語、農業、商業ヲ隨意科目トシテ之ヲ課シ得ルコトトナセリ蓋シ英語ハ世界ノ知識ヲ收得スルノ關鍵トシテ必要ナレトモ女生徒ハ男生徒ノ修ムル學科目以外ニ家事及裁縫ヲ學ヒ之カ爲ニ相當ノ時數ヲ要スヘキヲ以テ一般ニ英語ヲ課スルコトノ困難ナルヲ認メ學力ニ餘裕アル者ノミニ之ヲ修メシムルノ趣旨ニ依リテ隨意科目トシタルナリ又農業又ハ商業ハ地方ノ實情ニ對スル理解ヲ與フルノ必要ナル學科目ニシテ兒童教育上ニ重要ナル關係ヲ有スレトモ女生徒ニ就キテハ前記ノ事情ヲ考慮シ亦之ヲ隨意科目トナセリ然レトモ園藝ハ女子ノ趣味ヲ長セシメ且其ノ修養ニ資スルコト多キヲ以テ事情ノ許ス限リ之ヲ課スルハ當局ノ希望スル所ナリ

本科第二部ノ學科目ニ就キテハ師範教育ノ本旨ニ照ラシ生徒ヲシテ本邦ノ文化及使命ニ關シテ及フ限リ深ク領悟セシムルノ必要アルヲ以テ男女ヲ通シ歴史及地理ヲ必修セシムルコトトセリ又男生徒ニハ必修科目トシテ農業又ハ商業ヲ加ヘタレトモ農業學校、商業學校ヲ卒業シタル生徒ハ過去ニ於テ修ムル所相當ニ深キヲ以テ之ヲ缺クコトヲ得シメ其ノ時間ニ於テ便宜他ノ學科目ヲ修メシムルコトトシ女生徒ニハ法制及經濟ヲ男生徒ト同様ニ必修科目トシ尙女子ノ本務ニ緊要ナル家事ヲモ必修科目トシテ之ヲ課スルコトトセリ殊ニ修業年限二年ノ第二部女生徒ニ對シテハ第一部女生徒ニ於ケルト同シク英語、農業、商業ヲ隨意科目トシテ修ムルコトヲ得シメタリ

專攻科ノ學科目ハ各生徒ヲシテ共通ニ學修セシムル學科目ト隨意ニ選修セシムル學科目トノ二種ニ分チ共通ニ學修セシムル學科目中男女生徒ヲ通シテ哲學ヲ加ヘ形而上方面ノ修養ニ依リテ人格ヲ高尚ニシ思想ヲ堅實ナラシメムコトヲ圖リ尙男生徒ニハ農業又ハ商業ヲ必修セシメテ將來ニ於ケル就職地ノ實業ニ關スル理解ヲ深カラシメ女生徒ニハ家事及裁縫ヲ必修セシメテ一層深ク家政ニ關スル修養ヲ與ヘムコトヲ期セリ其ノ他修身、教育、國語及漢文、體操ヲ共通ニ學修セシムルハ教育者タルノ素養ニ缺クヘカラサルヲ以テナリ次ニ隨意ニ選修セシムル學科目ハ英語、歴史及地理ノ如キ文科



ニ屬スルモノ數學、博物、物理及化學ノ如キ理科ニ屬スルモノ圖畫及手工、音樂ノ如キ技能ニ屬スルモノヲ置キ生徒ヲシテ其ノ長スル所ト嗜好トニ隨ヒ一定ノ時數内ニ於テ隨意ニ二三ノ學科目ヲ選擇シテ學修セシムトス

學科目ノ内容ニ就キテハ教授要目ヲ改正シ小學校ニ於ケル教科目トノ聯絡ニ一層注意シ努メテ諸學科目教材ノ重複ヲ避ケ特ニ教育者タルノ本分ニ對シテ有效適切ナラシムルヤウノ教材ヲ選擇排列セリ次ニ各學科目ノ每週教授時數ニ就キテハ修身、歴史、地理、法制及經濟ノ如キ精神ノ修養ニ資スヘキ學科目ノ時數ヲ増加シ又博物、物理及化學ノ如キ科學上ノ知識ヲ涵養スヘキ學科目ニ就キテモ相當ニ之カ時數ヲ増加セリ而シテ課程表ノ上ニ於テハ習字、手工、音樂ノ如キ技能ノ時數ヲ減少シタルノ觀アレトモ是等ノ學科目ノ本來實習ヲ必要トシ且人々巧拙能不能ノ差多キモノナレハ實習ハ課程表ノ時數外ニ於テ尙之ヲ課スルコトヲ認メ當事者ヲシテ生徒ノ能力ヲ斟酌シテ適宜ニ獎勵セシムルノ餘地ヲ置キタルモノニシテ決シテ技能ノ價值ヲ輕視シタルノ結果ニアラサルナリ

尙學科目ノ要旨、教員ノ定數、入學、退學、學資、卒業後ノ服務、講習科等ノ各條ニ於テ多少ノ改正ヲ施シタルハ皆從來ノ經驗ニ照ラシ時勢ノ變遷ニ顧ミテ師範教育ノ改善ヲ圖ラムトスルノ趣旨ニ外ナラス

要スルニ今回改正ノ趣旨ハ小學校教員ノ德操識見ヲ向上セシメ從來ヨリモ一層優良ナル教育者ヲ養成シ以テ國民教育ノ振興ヲ期セムトスルニ在リ之ヲ外國ノ制度ニ徵シ又内外學者ノ所論ニ稽フレハ師範教育ノ改善ハ或ハ今回ノ改正ヲ以テ完全ナリト看做スコト能ハサルヘシ然レトモ國家百般ノ施設ハ財政經濟ト相俟ツヘキモノニシテ殊ニ師範教育制度ノ如キハ獨リ國家ノ財政ト關係アルノミナラス地方ノ經濟ニ及ホス影響極メテ大ナルモノアリ是ヲ以テ國家社會ノ實情ニ應ジ實行可能ナル範圍ニ於テ及フ限り師範教育ヲ改善セムコトニ力メ遂ニ今回ノ改正ヲ實行セリ更ニ小學校ニ於ケル現狀ヲ察スルニ教員ノ質ヲ良好ナラシムルト同時ニ其ノ量ヲ増加スルノ必要アリ政府ハ今回ノ改正ヲ實行スルニ際シ第二部ノ學級ヲ増加セムトスルハ之カ爲ナリ而シテ之カ費用ハ國庫ヨリ補助スルコトトシ努メテ地方負擔ノ増加ヲ避クヘント雖當事者カ教育上ニ障礙ヲ及ホササル程度ニ於テ節約利用ノ道ヲ講シ成ルヘク多數ノ優良ナル生徒ヲ養成セムコトハ最

モ深ク希望スル所ナリ地方長官ハ宜シク前記ノ趣旨ヲ體シテ學校當事者ヲ督勵シ以テ師範教育改善ノ實績ヲ舉ケシムルコトヲ期セラルヘシ

**師範學校教授要目改正**

大正十四年四月十八日  
文部省訓令第七號

北海道廳 府縣

明治四十三年文部省訓令第十三號師範學校教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ各師範學校長ヲシテ本改正教授要目ニ準據シ地方ノ情況ニ適切ナル教授要目ヲ定メシメ以テ各學科目教授ノ内容ヲ充實シ克ク師範教育ノ本旨ヲ貫徹セシムルコトヲ期スヘシ

師範學校教授要目

修身  
教育  
國語及漢文  
英語  
歷史  
地理  
數學  
博物  
物理及化學  
法制及經濟

農業  
商業  
習字  
圖畫  
手工  
音樂  
家事  
裁縫  
哲學



修身

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年

每週一時

師範學校生徒心得

教育ニ關スル勅語

道德ノ要領

身體

攝生 鍛鍊

精神

修學 修德

作法

○第二學年

每週一時

戊申詔書

道德ノ要領

家生活

家 祖先 孝行 夫婦 友愛 親族

社會生活

協同 公正 寬容 同情 公益 秩序 禮儀 職業

作法

○第三學年

每週二時

國民精神作興ニ關スル詔書

道德ノ要領

國家生活

國體 天皇 皇室 忠君愛國 國憲・國法

國際生活

國際親善 國際協力 外國人ニ對スル禮儀・交際

○第四學年

每週二時

道德ノ原理

良心 行爲 品性 至善 本務 德 人格

社會生活ノ原理

社會ノ成立及組織 社會ノ作用

教師ノ心得

小學校ニ於ケル修身教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校修身教科書ノ研究

○第五學年

每週二時

國民道德

我カ國道德ノ由來

教育ニ關スル勅語發布ノ由來

教育ニ關スル勅語ノ精神

教育ニ關スル勅語ノ意義ヲ明カニシ以テ我國民道德ノ特質ヲ悟了センメ且實踐躬行上ノ信念ヲ確實ナラシムヘシ

現代思想ノ批判

女生徒ノ部



男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準シテ適宜教授スヘシ

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準シテ適宜教授スヘシ

專攻科

每週二時

主要ナル倫理學說

現時ノ倫理問題

國民道德ト倫理學

小學校ニ於ケル修身教授ノ研究

注意

一 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ適應セシメ努メテ實際ノ生活ニ適切ナラシメンコトヲ要ス

二 女生徒ニ對シテハ前ニ掲ケタル道德ノ要領ヲ授クルノ外更ニ女子ニ必要ナル諸徳ヲ養フコトニ注意スヘシ

三 專攻科ニ於テハ本科ニ於テ教授シタル事項ヲ基礎トシ更ニ一層精深ナル系統的知識ヲ與フルコトニカムヘシ

四 作法ヲ教授スルニハ善ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ其ノ心得ヲ授クルニハ別ニ時間ヲ設ケス道德ノ要領ヲ授クル際便宜併セ課スルモ可ナリ

五 教師ノ心得ヲ授クル際ニハ明治十四年文部省達第十九號小學校教員心得ヲ説明スヘシ

六 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

教 育

本科第一部

男生徒ノ部

○第三學年

每週二時

心 理

精神現象 心理研究ノ方法

精神現象ノ生理的基礎 意識 注意

感覺 知覺 直觀 類化 記憶 想像 思考 言語 感情 衝動及本能 意志 品性 個性 社會心 作業 能率 疲勞

心身ノ發達

○第四學年

每週三時

論 理

思考ノ原理 名辭 命題 論式 演繹法 歸納法 探究的方法 統整的方法 誤謬

教育ノ理論 教授法及保育法

教育ノ意義 教育ノ效果 遺傳ト環境

教育ノ目的 小學校教育ノ目的



教師ト兒童

養護ノ任務 養護ノ方法

教授ノ任務 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法

訓練ノ任務 個性ト訓練 訓練ノ方法

教育效果ノ考查

學校ト家庭及社會トノ關係 教育ノ種類 學校 系統  
保育ノ任務 保育ノ方法

○第五學年

每週五時

近世教育史

近世本邦教育ノ概要

近世歐米教育ノ概要

現今歐米教育ノ情況

本邦明治維新以後ノ教育

教育制度 學校管理法 學校衛生

教育制度ノ概要

小學校ノ本旨及種類

小學校ノ設置

小學校ノ教科及編制

小學校ノ設備

就學

小學校ノ職員

小學校ノ費用負擔及授業料

小學校ニ類スル各種學校

幼稚園

小學校ノ管理及監督

設備上ノ衛生 教授上ノ衛生 運動ノ衛生

身體虛弱者・精神薄弱者ノ取扱

學校醫及學校看護婦 身體検査

學校ニ於ケル疾病豫防並治療ニ關スル心得

教育實習

附屬小學校參觀

模範教授ニヨル指導

教授案ノ試作及教授ノ實習

管理・訓練ニ關スル指導及實習

學校事務ノ指導及實習

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年

每週八時

本科第一部男生徒ノ部第三學年第四學年及第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週四時



本科第一部男生徒ノ部第三學年及第四學年ニ準ス

○第二學年 每週四時

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週七時

本科第一部男生徒ノ部第三學年第四學年及第五學年ニ準ス

專攻科 每週四時

教育理論

現時ニ於ケル主要ナル教育思想

教育ノ方法ニ關スル諸問題

社會教化ニ關スル理論及實際

心理

現代心理學研究ノ趨勢及諸問題

教育教授ニ關スル心性考査理論及實際

注意

一 心理ヲ授クルニハ努メテ之ヲ教育上ノ實際ニ應用シ又適宜實驗ニヨリテ之ヲ説明スヘシ

二 論理ヲ授クルニハ教育上ノ應用ニ注意シ思考ノ練習ニ重キヲ置クヘシ

三 教育ノ理論ヲ授クルニハ倫理・心理・論理等ノ知識ヲ應用シテ教育ノ據ルヘキ原理ヲ明カニシ且常ニ小學校教育ノ實際ニ通セシメンコトニカムヘシ

四 教授法及保育法ヲ授クルニハ兒童心身ノ發育ノ理ニ基キ教育ノ理論ト實際ト生活トニ顧ミテ適切ナル方法ヲ明ニス

ヘシ

五 近世教育史ヲ授クルニハ常ニ其ノ現時ニ及ホシタル影響ニ著眼シ殊ニ小學校ノ變遷ニ重キヲ置クヘシ又教育ノ思想

及制度ノ變遷並其ノ相互ノ關係ヲ知ラシメ主ナル教育家ノ傳記及學說ヲ其ノ時勢ト關聯シテ授ケ更ニ其ノ教育上ニ及  
ホシタル影響ヲ明カニスルヲ要ス

六 教育制度・學校管理法及學校衛生ヲ授クルニハ現行ノ法令規則ノ要旨ヲ明カニシ總テ小學校教育ノ實際ノ事項ニ就

キテ之ヲ説明センコトヲ要ス而シテ些細ナル實際上ノ事項ニ至リテハ教育實習ノ際教導指示スヘシ

國語及漢文

國語讀本ノ文體ハ普通文・書牘文・韻文ノ三種トシ更ニ之ヲ文語體・口語體ノ二ニ分ツ

普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交フ尙中古文・上古文中ヨリ適宜選擇スルコトヲ得

書牘文ハ平易暢達ニシテ日用書牘文ノ模範トスヘキモノタルヘシ

韻文ハ格調高雅ナルモノタルヘシ

漢文讀本ノ文體ハ散文・韻文トス但シ普通ノ散文ヲ主トシ平易正雅ナル韻文ヲ加フヘシ

國語讀本ノ材料ハ凡ソ左ノ標準ニ適合スルモノタルヘシ但シ女子ノタメニハ家政其ノ他女子ニ適切ナル事項ヲ加フヘシ

思想健全ニシテ道義的觀念ヲ涵養スルニ足ルモノ

文學的趣味ヲ有シ生徒ノ思想ニ適シ其ノ心情ヲ高雅ナラシムルモノ

時勢ニ適シ國民日常ノ生活ニ裨益アリ常識ヲ養成スルニ足ルモノ

我カ國體及民族ノ美風等ヲ記述シ國民性ヲ涵養スルニ足ルモノ

欽仰スヘキ教育家・學者其ノ他賢哲ノ傳記ニシテ修養ニ裨益アルモノ

漢文讀本ノ材料ノ標準ハ凡國語讀本ノ材料ノ標準ニ據ルヘシ

本科第一部

男生徒ノ部



○第一學年

每週六時

國語

講讀 每週二時  
作文 文法 每週二時

講讀

讀本ハ現代文ヲ主トシテ平易ナル近世文ヲ加フ

讀方及解釋 發音ヲ正確明瞭ニシ句讀ヲ正クシ語句文章ノ意義ヲ領得セシメ文意文勢ヲ誦讀ノ上ニ表シ進ミテハ文章ノ妙所ヲ玩味セシムヘシ

話方 主トシテ讀本若ハ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム其ノ際發音ニ注意シ方言訛音ヲ矯正センコトニ力ムヘシ

暗誦 適當ナル文ヲ選ヒテ暗誦セシム

書取 讀本若ハ讀本以外ノ語句文章ヲ筆記セシメ假名遣及漢文ノ字畫用法ヲ正確ニシ且迅速ニ筆記スルノ習慣ヲ養ハシムヘシ

作文

各自ノ思想ヲ各種ノ文體ニテ記述セシムヘシ

各種ノ文體ヲ交互ニ書キ改メシムヘシ

說話ヲ聞カシメ各種ノ文體ニテ記述セシムヘシ

文法

文語・口語ノ文法ノ大要ヲ教授スヘシ

漢文

每週二時

讀本ハ簡易ナル散文ヲ主トシ間々詩歌ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方ハ國語ノ法則ニ從ヒ解釋ハ普通ノ口語ヲ用ヒテ之ヲナサシムヘク且講讀ノ際漢文ト國文トノ組織ノ異同ニ注意セシメ熟語成句ヲ書取ラシメテ文字ノ字畫用法ヲ正確ニ會得セシムヘシ又人口ニ膾炙セル文章詩歌ハ成ルヘク之ヲ暗誦セシムヘシ

○第二學年

每週六時

國語

講讀 每週二時  
作文 文法 每週二時

講讀

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ加フ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作文

前學年ニ準ス

文法

前學年ニ引續キ文語・口語ノ文法ノ大要ヲ授クヘシ

漢文

每週二時

讀本ハ前學年ノ後ヲ承ケテ程度稍々進ミタル散文・韻文ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方及解釋 書取 暗誦

前學年ニ準ス

○第三學年

每週四時

國語

講讀 作文 法 每週二時

講讀

讀本ハ現代文・近世文・近古文ヲ主トシ中古文ヲ加フ

讀方及解釋 前學年ニ準シ尙文理文脈ヲ正シ文章ノ精神ヲ領得セシムヘシ

書取 隨時之ヲ行フヘシ

暗誦 前學年ニ準ス

作文



自作文ヲ主トスヘシ  
文法

講讀ノ際既習ノ事項ニ就キテ練習セシメ且其應用ニ熟セシムヘシ

漢文 每週二時

讀本ハ前學年ノ後ヲ承ケテ程度ノ更ニ進ミタル散文・韻文ヲ採録セルモノタルヘシ  
讀方及解釋 前學年ニ準ス

時々國語ノ簡單ナル章句ヲ漢文ニ譯セシメ措辭用字ノ法ヲ會得セシムヘシ

○第四學年 每週五時

國語 講讀第一學期第二學期每  
週三時第三學期每週一時

講讀

讀本ハ現代文・近世文・近古文ヲ主トシ中古文・上古文ヲ加フ

讀方又解釋 前學年ニ準シ尙時代的特色・作家ノ個人的特徴等ヲ説明シ我カ國民性ノ神髓ヲ領得セシムヘシ

作文

自作文ヲ主トスヘシ

文法

前學年ニ準ス

漢文 每週二時

讀本ハ前學年ニ準ス

讀方及解釋

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル國語教授法 第三學期每週二時

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校國語讀本ノ研究

○第五學年 每週五時

國語 講讀作文每週三時

講讀

讀本ハ前學年ニ準ス

讀方及解釋

前學年ニ準ス

作文

前學年ニ準ス

文法

前學年ニ準ス

漢文 每週二時

講讀

讀本ハ前學年ニ準ス但シ我カ國ノ徳教ニ關係アル支那ノ典籍ヲ以テ之ニ代フルモ妨ナシ

讀方及解釋

前學年ニ準ス

女生徒ノ部

讀本ハ女子ニ適切ナル材料ヲ多カラシムヘシ其ノ他男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週三時

國語及漢文



講讀 作文 文法

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

小學校ニ於ケル國語教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週五時

國語及漢文

小學校ニ於ケル國語教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週五時

國語及漢文

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週三時

國語及漢文

講讀 作文 文法

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

小學校ニ於ケル國語教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

專攻科

國語 每週四時

講讀

教材ハ現代文ヨリ上古文ニ及フ

教科書ハ全本ヲ用フルヲ可ナリトスレトモ便宜抄本又ハ編纂物ヲ用フルヲ妨ケス

講讀ニ於テハ解釋・鑑賞・批評ノ三態度ヲ取ルヘシ

作文

自作文 少クトモ一箇月一回之ヲ課スヘシ

文法

文法ハ講讀ノ際ニ於テ既得ノ文法ノ知識ヲ整理シ各時代ノ語法ノ特徴ヲ説明シ且其ノ應用ニ習熟セシムヘシ

文學史

文學書ノ解題、文學者ノ傳記、文例等ヲ授ケ國文學ノ史的發展及文學ニ現ハレタル國民思想ノ主流ヲ説述シ且作品・作家ノ評論ヲナスヘシ

漢文

講讀

教材ハ本科ヨリ程度ヲ進メ先秦時代以上ノ文ヲ加フルヲ得

教科書ハ全本ヲ用フルヲ可ナリトスレトモ便宜抄本又ハ編纂物ヲ用フルヲ妨ケス

講讀ニ於テハ作家ノ個人的特徴ヲ示シ且思想ニ關シテハ適切ナル批判ヲ下スヘシ

小學校ニ於ケル國語教授ノ研究

注意

一 作文ハ成ルヘク多ク之ヲ課スヘシ

二 書取ハ成ルヘク多ク之ヲ課シ殊ニ日常ノ用語ヲ十分ニ練習セシムヘシ

三 漢字ヲ教授スルニ當リテハ一般普通ニ行ハルル俗字・和字・略字・省畫等ヲ避ケス實用ニ適センコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス



- 四 文法ハ成ルヘク讀本其ノ他普通ノ實例ニ就キテ授ケ實用ニ遠サカランコトヲ要ス
- 五 適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

英語ノ各分科ニ於テ授クル事項左ノ如シ

發音 綴字

單音・連音・あくせんと及文字ノ組合セテ授ク

讀方及譯釋

文章ノ聽方・讀方及讀解ヲ授ク

話方及作文

話方ニ於テハ對話・說話ニ依リテ聽方・言方ヲ授ク

作文ニ於テハ凡左ノ諸例ニ準シ適宜之ヲ課ス

讀方及譯解又ハ話方ニ於テ練習セル事項ヲ應用シテ記述セシムルモノ

國語ヲ英語ニ譯セシムルモノ

記述スヘキ事項ノ梗概ヲ授ケ又ハ使用スヘキ語句ヲ示シ之ヲ綴ラシムルモノ

課題ヲ與ヘ自由ニ文ヲ綴ラシムルモノ

書取

語句・文章ヲ臨寫セシメ又ハ之ヲ朗讀シテ筆記セシム

習字

書寫文字ノ書方ヲ授ク

文法

品詞論及文章論ノ一班ヲ授ク

本科第一部

○第一學年 每週五時

發音 綴字

初ハ專ラ發音・綴字ヲ授ケ後ニハ他ノ分科ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方及譯解 話方及作文 書取

簡易ナル文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ簡易ナル話方及作文、書取ヲ練習セシメ兼テ便宜文法上ノ事項

ヲ知ラシムヘシ

習字

成ルヘク既習ノ語句・文章ニ就キテ之ヲ授クヘシ

○第二學年 每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍々進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

習字

前學年ニ準ス

○第三學年 每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍々進ミタル程度ニ於テ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ話方及作文、書取ヲ練習セシムヘシ

文法

成ルヘク既習ノ材料ニ基キテ文法ノ大要ヲ授クヘシ

○第四學年 每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍々進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

文法



前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル英語教授法

○第五學年 每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ更ニ進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ兼テ文法上ノ練習ヲ爲サシムヘシ

女生徒ノ部

○第一學年第二學年及第三學年

每週三時

○第四學年及第五學年

每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週二時

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

專攻科

每週四時

本科第一部ニテ授クル教材ヨリ更ニ進ミタル程度ニテ讀書力ヲ養フコトヲ主眼トシテ文學・歴史・地理・修身其ノ他ノ學科目ニ關スル英語ノ讀方及譯解ヲ授ク

注意

一 教材ハ古語、古文、難解ナル語句、應用範圍ノ限ラレタル特別ノ表出等ヲ避クヘシ

二 教材ハ生徒ノ容易ニ消化シ得ル程度ニ止メ又例解モ微細ニ馳セサルヤウ注意スヘシ

三 生徒ノ學力ニ應シ明瞭ニ會得セル有用ナル章句ニ就キ時々暗誦ヲ課スヘシ

四 發音ハ初期ノ教授ニ於テ特ニ之ヲ注意シ必要アルトキハ舌・齒・唇等ノ位置ヲ説明シ又ハ發音圖ヲ示スヘシ

五 讀方及譯解ニ於テハ場合ニ依リ實物・繪畫・動作等ヲ用ヒテ直接ニ其ノ意義ヲ示シ又彼我風俗・習慣等ノ相違ヲ説キ

テ意義ノ了解ヲ助クヘシ

六 適當ノ時期ニ於テ豫習ヲ課シ又ハ辭書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

歴史

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

外國史

甲支那ヲ主トシタル東方諸國

上代ノ支那 周

春秋・戰國時代

周代ノ文化 孔子 孟子

秦ノ統一

漢ノ興起 武帝ノ功業

後漢 西域トノ交通 東方諸國トノ關係

漢代ノ文化

上代ノ印度 釋迦牟尼 佛教ノ東漸

三國ノ鼎立 晉ノ統一

胡族ノ侵入 東晉 南北朝ノ對立



南北朝時代ノ文化  
 隨ノ統一  
 唐ノ創業 外國經略  
 玄宗ノ中興 安史ノ亂 唐ノ衰亡  
 唐代ノ制度及文化  
 五代・遼ノ興功 渤海ノ興亡  
 宋ノ統一 遼・金トノ交渉 南宋  
 宋代ノ文化  
 蒙古ノ勃興  
 元ノ世祖 宋ノ滅亡高麗・日本及南海諸國トノ關係  
 東西ノ交通  
 元ノ衰亡 帖木兒  
 明ノ興起  
 外寇 朝鮮及日本トノ關係 明ノ衰運 滿洲人ノ勃興  
 元・明時代ノ文化  
 西洋人ノ東洋經略 通商及布教 西洋學術ノ傳來  
 清ノ統一  
 清朝ノ極盛 清・露ノ交渉 塞外ノ經略  
 清代ノ文化  
 莫臥兒帝國 英人ノ印度經略  
 阿片戰爭  
 長髮賊ノ亂 英・佛聯合軍ノ侵入

露國ノ滿洲經略及中央亞細亞侵略 伊犁事件  
 佛國ノ印度支那經略 清佛戰爭  
 朝鮮ニ於ケル日・清ノ關係  
 清國ニ對スル歐洲諸強國ノ壓迫  
 日・露戰役 日本ノ韓國併合  
 清ノ滅亡 支那共和國ノ建設  
 共和國建設後ノ支那  
 日支交渉  
 東洋ノ現勢ト我國ノ地位  
 ○第二學年 每週二時

外國史

乙 西洋諸國

太古ノ東方諸國  
 希臘民族ノ興起 希臘諸國ノ爭霸 希臘ノ文化  
 アレキサンドル大王ノ偉業  
 羅馬ノ建國 其ノ共和政治 地中海沿岸ノ平定  
 羅馬ノ內爭 帝政ノ成立 羅馬帝國ノ東西分立  
 羅馬ノ文化 基督教  
 ゲルマニヤ諸民族ノ大移動 西羅馬帝國ノ滅亡  
 東羅馬帝國ノ盛衰 サラセンノ勃興 回教及其ノ文化  
 フランク王國ト其ノ分裂 ノルマンノ活動  
 神聖羅馬帝國ノ成立 羅馬法王權ノ隆盛



中古西歐ノ社會 教會 封建制度

十字軍ト其ノ影響 都市ノ興起

蒙古ノ侵入 土耳其ノ勃興 東羅馬帝國ノ滅亡

西歐ニ於ケル中央集權的諸國ノ成立

文藝ノ復興及諸發明

地理上ノ發見 西班牙・葡萄牙ノ興隆

宗教改革及其ノ反動

宗教及政治上ノ紛争 和蘭ノ獨立

三十年戰役及其ノ影響

佛蘭西ノ強大ト其ノ文化

英吉利ノ革命同國民權ノ發達

露西亞ノ勃興 シベリヤ拓殖

普魯西ノ興起 波蘭ノ分割

西歐諸國ノ植民事業 和蘭ノ植民 英・佛二國ノ植民政策ノ衝突

北米合衆國ノ獨立

第十七・八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ社會思想及文化

佛蘭西革命

ナポレオン一世ノ大業

ウィーン會議 神聖同盟

亞米利加諸國及希臘ノ獨立モンロー主義

七月革命及其ノ影響

産業革命 英吉利政界ノ革新

二月革命ト其ノ後ノ佛蘭西

○第三學年

外國史

第一學期每週二時

乙西洋諸國ノ續

伊太利ノ統一

普・奧戰役 獨・佛戰役 獨逸帝國ノ統一

北米合衆國ノ内情 南北戰争 戰後ノ發展

クリミア戰役 露・土戰役 伯林會議

歐米列強ノ亞細亞・阿弗利加・太平洋ニ於ケル經營

十九世紀末ニ於ケル歐洲諸國ノ形勢

十九世紀文明ノ進歩

世界大戰 大戰ニ於ケル日本ノ活動

大戰後世界ノ情勢 國際聯盟 華盛頓會議

現今世界ノ大勢ト日本

國 史

第二學期及第三學期每週二時

建國ノ體制

國內ノ統一 上古ノ社會・政治組織

朝鮮半島トノ關係 文化ノ進歩

支那トノ交通 政治ノ改新

奈良時代ノ政治・文化

平安時代初期ノ趨勢

攝關政治 莊園



平安時代ノ文化

院政 武士道ノ勃興 源平二氏ノ興亡

○第四學年 每週二時

國史

鎌倉幕府ノ成立 北條氏執權政治

武士道

支那トノ交通 元寇

鎌倉時代ノ文化

朝廷ト幕府トノ關係 建武中興

室町幕府

支那及朝鮮トノ交通

東山時代ノ文化

戰國時代ノ世相

西洋人ノ渡來 國民ノ對外活動

海内ノ統一 美術・技藝

江戸幕府ノ成立 社會組織

海外諸國トノ交通

鎖國

學問ノ復興

産業ノ發達

幕府政治ノ弛張 諸藩ノ治

尊王思想ノ發達 國學ノ勃興

外交ノ紛糾 洋學ノ研究

大政奉還

小學校ニ於ケル歴史教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法

小學校歴史教科書ノ研究

○第五學年 每週一時

國史

明治維新

明治初年ノ外交

西洋文化ノ採用 社會ノ變化

立憲政體ノ確立

條約改正ト法典制定

經濟及文化ノ發達

東洋ノ平和ニ對スル我方國策

國運ノ進歩

歐洲ノ大戰ト我方國

國民ノ覺悟

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

但シ成ルヘク多ク各時代ニ於ケル女子ニ關スル教材ヲ配當スヘシ

本科第二部

男生徒ノ部



○第一學年 每週一時

本邦現代史及小學校ニ於ケル歴史教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週一時

世界歴史ノ補習

○第二學年 每週一時

本科第二部男生徒ノ部第一學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週一時

本科第二部男生徒ノ部第一學年ニ準ス

專攻科 每週二時

國史

國體ト政體

外交ノ沿革

敬神思想ト宗教ノ變遷

教育ノ發達

美術・工藝ノ發達

産業ノ發達

國民生活ノ變遷

國史ニ現ハレタル女性

小學校ニ於ケル歴史教授ノ研究

注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ國家ノ盛衰社會ノ變遷ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シメ特ニ我カ國體ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明カナラシムルコトヲ主トシ徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レテ其ノ要領ヲ失ハサランコトヲ要ス
- 二 教授ノ内容ハ概ネ古代ヨリ近代ニ進ムニ從ヒテ漸次之ヲ詳ニシ過去ノ史實ニ依リテ現在ヲ證明シ尙將來ノ確信ヲ與フルコトニ力ムヘシ
- 三 歴史ノ教授ハ煩瑣ニ陥ラサル限リ成ルヘク各時代ノ政治經濟文化ノ大要ニ互リ特ニ教育・道德ノ事項ニ留意セシムヘシ
- 四 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行・事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒ノ徳性涵養ニ資センコトヲ力ムヘシ
- 五 有名ナル詩歌・文章・傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ利用シテ興味ヲ助クヘシ
- 六 國史ノ事項中特ニ學校所在地方ニ關係多キモノハ稍々詳ニ之ヲ教授スヘシ
- 七 外國史ハ特ニ我カ國ニ關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ又我カ國體ト背馳スルカ如キ事歴ニ就テハ被我國情ノ異ナル所以ヲ明ニシ生徒ヲシテ誤解ヲ生セシメサランコトヲ期スヘシ
- 八 國史ト外國史ト交渉アル事蹟ハ各史ノ立場ヨリ之ヲ説明シテ成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 九 教授ノ際ハ對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ聯絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖・圖畫・實物・標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ

地理

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年

每週二時

日本地理

帝國ノ位置 境域

地方誌



小學校トノ聯絡ヲ圖リ地方又ハ府縣ニ就キ重要ナル事項ヲ選擇シテ補習セシムヘシ

總括

地勢 氣候 天產物 産業 住民 政治 教育 宗教 交通

○第二學年 每週二時

外國地理

亞細亞洲

總說

位置・境域・地勢・氣候・天產物・産業・住民・交通等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ做フ

各說

各國又ハ各地方ニ就キテ總說ニ於テ列舉シタル事項ノ外政治・教育・宗教・都會・我カ國トノ關係等ノ事項ヲモ授クヘシ但シ國ノ大小・我カ國トノ關係ノ多少等ニ依リ教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ做フ

支那

印度支那半島

馬來諸島

印度

イラン地方

亞細亞土耳其

亞刺比亞

中央亞細亞

コーカシヤ

西比利亞

歐羅巴洲

總說

各說

露西亞

芬蘭

バルト海沿岸諸國

スカンヂナビヤ半島

丁抹

波蘭

獨逸

和蘭

白耳義

瑞西

チエツコスロヴァキヤ

奧地利

洪牙利

英吉利

佛蘭西

イペリヤ半島

伊太利

バルカン半島

阿弗利加洲

總說



各説

北亞米利加洲

總説

各説

加奈陀

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

南亞米利加洲

總説

各説

西北部諸國

北部諸國

ブラジル

南部諸國

大洋洲

總説

各説

兩極地方

○第三學年

每週一時

自然地理概説

星界地理

宇宙及太陽系 地球 地球ノ運動 月 曆 地圖

陸界地理

陸地ノ現状 陸地ノ變動 地形ノ成因

水界地理

海洋 海水ノ性質及運動

氣界地理

大氣 氣温 氣壓及氣流 降水 天氣及氣候

生物地理

○第四學年

每週一時

人文地理概説

世界ノ住民

自然ト人類

人類ノ住所

産業ト產物

交通

國家

世界列強ノ現勢

小學校ニ於ケル地理教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校地理教科書及附圖ノ研究

○第五學年

每週一時



日本國勢地理

國土ノ自然

住民

經濟

政治

宗教

教育

衛生

日本ノ世界的地位

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年

每週一時

日本國勢地理

小學校ニ於ケル地理教授法

本科第一部第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週一時

外國地理ノ補習

本科第一部男生徒ノ部ニ準シテ補習ス

小學校ニ於ケル地理教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年

每週一時

日本國勢地理

本科第一部男生徒ノ部ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年

每週一時

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

專攻科

每週二時

日本ヲ中心トシタル經濟地理

土地 氣候 住民

農業

養蠶業

牧畜業

林業

鑛業

水産業

工業

商業

世界ニ於ケル日本ノ地位

注意

一 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較聯合ニ努メ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我カ國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎



トナスヘシ

- 二 學校所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ特ニ詳細ニ教授スヘシ
- 三 世界地理ニ於テ政治ヲ授クルニ當リテハ必要ニ應シ其ノ沿革ノ大要ヲ説クヘシ
- 四 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖・標本・寫眞・繪畫・表等ニ依リ又之ヲ幻燈ニ映寫シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 五 地圖ヲ使用スルニ當リテハ其ノ讀ミ方ニ注意セシメ又便宜ノ時間ニ於テ地圖ノ描寫及見取圖製作ノ實習ヲナサシムヘシ
- 六 自然地理ハ特ニ我カ國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 七 人文地理ハ時々ノ異動ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 八 地理ヲ授クルニハ必要ニ應シテ歴史等トノ關係ニ留意スヘシ
- 九 外國ノ地名中普通漢字ヲ用フルモノハ便宜其ノ漢字ヲモ知ラシムヘシ

數 學

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年

每週四時

算術及代數

整數 小數 分數

比例 步合算

負數

整式

加法・減法・乘法・除法

一次方程式

一元方程式 聯立方程式 一次式ノ變化及其ノぐらふ

幾 何

簡易ナル平面圖形ノ作圖

簡易ナル立體模型ノ作製

長サ・角・面積・體積ノ測定

直線

角 平行線

直線形

三角形 平行四邊形

○第二學年

每週四時

算術及代數

分數式

因數 最大公約數 最小公倍數 約分・通分 加法・減法・乘法・除法 分數方程式

二次方程式

平方根 無理數 一元方程式 分數方程式 無理方程式 聯立方程式 二次式ノ變化及其ノぐらふ

幾 何

圓

弧・弦 中心角・圓周角 弓形 切線 二ツノ圓 內接形・外切形

軌跡

作圖題

○第三學年

每週四時

算術及代數



比例

比 比例 互ニ比例スル量及其ノぐらふ 互ニ反比例スル量及其ノぐらふ

級數

等差級數 等比級數

對數

步合算

步合 利息 年金

幾 何

面積

比例 相似形

圓ノ周及面積

三角函數 三角形ノ解法

簡易ナル測量

○第四學年

代 數 每週三時

順列 組合

二項定理

確率

幾 何

平面及直線

平面ト直線

二ツノ平面 二面角 立體角

多面體

角 角錐

曲面體

圓錐 圓球

算 術

應用問題各種ノ解法 問題構成法

日用諸算

球算ノ練習

小學校ニ於ケル算術教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校算術教科書ノ研究

○第五學年 每週三時

總括及補充

數ト量トノ關係

數 代數式

方程式 不等式

函數及其ノぐらふ

極大極小

最大公約數ヲ求ムル一般ノ方法

開平 開立

投影畫及透視畫ノ理論



圓錐曲線 橢圓體

女生徒ノ部

○第一學年及第二學年

○第三學年第四學年及第五學年

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年

每週二時

算術

應用問題各種ノ解法 問題構成法

日用諸算

珠算ノ練習

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週四時

算術及代數

整數 小數 分數

整式

分數式

方程式

比例

級數

幾何

角 平行線

直線形

圓

面積

比例

軌跡

作圖題

○第二學年

每週三時

算術・代數及幾何

對數

歩合算

函數及其ノぐらふ

平面及直線

多面體

曲面體

三角函數 三角形ノ解法

簡易ナル測量

應用問題各種ノ解法 問題構成法

日用諸算



珠算ノ練習

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週三時

算術・代數及幾何

修業年限二年ノモノニ準ス

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

專攻科 每週四時

代數及幾何

順列 組合 確率 級數 對數 方程式論

軌跡 作圖題

三角法

三角函數 三角方程式 球面三角形

解析幾何大意

微積分大意

小學校ニ於ケル數學教授ノ研究

注意

一、本要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教授事項ヲ舉ケタルモノナリ其ノ選擇排列ニ就キテハ適宜斟酌スルモ妨ナシ

二、數學ノ各分科ハ常ニ相互ノ聯絡ヲ圖リ彼此相融通シテ教授スヘシ

三、數ノ計算ハ各學年ヲ通シテ其ノ練習ニ力ヲ注キ尙概算及近似値ノ計算ニ習熟センメ又計算尺複利表對數表等ノ使用

ニモ慣レシムヘシ

四、軌跡・作圖題及面積ハ本要目ニ掲ケタル學年以外ニ於テモ適宜之ヲ授クヘシ

博物

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年及第二學年 每週二時

植物 凡八十時

植物ノ教授ハ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

形態

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

分類

顯花植物 被子植物・裸子植物及其ノ主要ナル科ノ性質・適例

隱花植物 羊齒植物・蘚苔植物・菌藻植物ノ性質・適例

醱酵・腐敗・傳染病ノ原因タル植物ノ大要

學校所在地方ノ普通植物ノ分類

解剖

細胞 組織 葉・莖及根ノ構造

生理

養分 吸收 同化 蒸散 呼吸 成長 運動 刺戟感應

生殖

生態

植物ノ生活ト外界トノ關係及其ノ植物ノ形態・生理・分布上ニ於ケル影響



分布

地理的分布 生態的分布 學校所在地方ニ於ケル分布

應用

主要ナル食用・嗜好料・藥用・建築用・工業用・觀賞用ニ供スル植物 肥料及飼料ニ用フル植物 有害ナル植物  
實驗及實習セシムヘキ事項左ノ如シ

檢索

解剖ニ關スル實驗

生理ニ關スル實驗

栽培

採集

標本ノ調製法及保存法

說明圖及模型ノ製作

動物

凡八十時

動物ノ教授ハ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

分類

脊椎動物

哺乳類 鳥類 爬虫類 兩棲類 魚類

附

頭索類 被囊類

節足動物

昆虫類 蜘蛛類 多足類 甲殼類

軟體動物

頭足類 腹足類 斧足類

蠕形動物

環虫類 圓虫類 扁虫類

棘皮動物

海膽類 海星類 涉嚙類

腔腸動物

珊瑚類 水母類

海綿動物

原始動物

形態及解剖 各部類ノ外形・骨格・筋肉・内臟

生理

消化 循環 呼吸 排泄 運動 神經作用 生殖 發生 變態

習性

習性ノ中其ノ構造トノ關係ノ顯著ナルモノ

自然現象トシテ趣味アルモノ 人生ニ密接ノ關係アルモノ等

寄生、共生、害敵ニ對スル保護等

分布

動物ノ傳播 地理上ノ分布

應用

食料・衣料・肥料・藥用・染料・工業用・裝飾用・賞翫ニ供スル動物 家畜 家禽 有害ナル動物  
寄生動物ニ對スル注意 病毒媒介動物ニ對スル注意



實驗又ハ實習セシムヘキ事項左ノ如シ

形態・解剖・發生ニ關スル實驗  
採集

飼育  
標本ノ調製法及保存法

說明圖及模型ノ製作

○第三學年 每週二時

○第四學年 每週一時

生理及衛生 凡五十時

人體ノ構造

骨ノ構造・联接・作用・發育

筋肉ノ種類・構造・作用・發育

消化器

飲食物 消化器及其ノ作用

循環器

血液及淋巴 循環器及其ノ作用 血管腺及內分泌

呼吸器

呼吸器及其ノ作用 發聲器

泌尿器

泌尿器及其ノ作用 尿

皮膚

皮膚ノ構造・作用 毛髮 爪

神經系

腦脊髓神經系及其ノ作用 交感神經系及其ノ作用 感覺器及其ノ作用

前記ノ事項ヲ授クル際各部分ノ衛生並普通ノ疾患ニ就キ説明スヘシ

全身ニ關スル事項

新陳代謝 疲勞及恢復 發育及老衰

個人衛生

節制 清潔 運動 修學・執業ト休息・睡眠 救急療法 疾患ニ對スル心得

酒・煙草ノ害

公衆衛生

居住地 交通 集會 職業 傳染病

實驗又ハ實習セシムヘキ事項左ノ如シ

理解ヲ助クヘキ動物ノ解剖

生理作用ニ關スル實驗

救急療法

消毒法

鑛物

鑛物ノ教授ハ鑛物又ハ岩石ノ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

鑛物

凡五十時

金鑛 銀鑛 水銀鑛 銅鑛 鐵鑛 鉛鑛 亞鉛鑛 錫鑛 たんぐすてん鑛 滿俺鑛 くらむ鑛 あんちもに鑛 に

つける鑛 あるみにうむ鑛 砒鑛 黃鐵鑛 硫黃 石英 長石 雲母 角閃石 輝石 電氣石 橄欖石 綠泥石 螢



石 岩鹽 石膏 重晶石 方解石 霰石 菱苦土 苦灰石 燐灰石 柘榴石 とばーず 鋼玉石 金剛石 石墨  
石炭 石油 あすふあると 陶土

火成岩

花崗岩 閃綠岩 橄欖岩附蛇紋岩 石英班岩 石英粗面岩 安山岩 玄武岩 火山噴出物

水成岩

礫岩 砂岩 珪岩 泥板岩 粘板岩 凝灰岩 石灰岩 珪藻土

變成岩

片麻岩 雲母片岩 綠泥片岩

土壤

地殼構造ノ概要

地史概要

實驗又ハ實習セシムヘキ事項左ノ如シ

結晶 劈開 硬度 比重 透光 色 條痕 光澤 重屈折 吹管分析 濕式反應

地層ノ測定 見取圖及野稿圖

採集

説明圖及模型ノ製作

生物通論

凡十時

植物ト動物

生活現象

個體生活ノ條件 器官及其ノ作用 適應ノ狀態 生活法ノ種類

蕃殖法 遺傳及變異 品種改良

進化論大意

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ博物ニ關スルモノ) 凡十時

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用用具及教授上必要ナル注意

小學校理科教科書ノ研究

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

第一學年

每週二時

博物

本科第一部男生徒ノ部ニ準シ小學校ニ於ケル理科教授ニ必要ナル博物ノ知識ヲ補習シ且生徒各自ニ實驗及製作ヲナサシム

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ博物ニ關スルモノ)

本科第一部男生徒ノ部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週二時

○第二學年

每週一時

本科第一部男生徒ノ部ニ準シ適宜其ノ教授事項ヲ各學年ニ配當シテ教授スヘシ

修業年限一年ノモノ

○第一學年

每週二時

本科第二部男生徒ノ部ニ準ス



專攻科 每週四時  
植物 凡四十五時

形態及構造

植物體ノ主要ナル器官及其ノ變形

同上實驗

生理

養分 養分吸收、養分ノ移行、根壓、蒸散作用、同化作用、呼吸作用、發芽、成長、運動、刺戟感應、生殖

同上實驗

動物 凡三十時

動物ノ發生及比較解剖

同上實驗

進化論 生物通論 凡十五時

礦物及地質 凡三十時

結晶 結晶ノ面角及對稱、結晶軸、結晶系、結晶ノ成長、晶癖、結晶體ノ集合

同上實驗

普通ナル鑛物ノ性狀及其ノ實驗

岩石

成因、性狀、變質

同上實地見學

地殼ノ構造

層狀岩ノ現出、塊狀岩ノ現出、鑛床

同上實地見學

地殼ノ變動

外因的變動、內因的變動

同上實地見學

地史概論

原始代、古生代、中生代、新生代

同上實地見學

小學校ニ於ケル理科教授ノ研究(主トシテ博物ニ關スルモノ) 凡四十時

注意

一、本要目ニ掲ケタル事項ハ土地ノ情況ト季節トニ依リ便宜斟酌スヘシ

二、博物ハ物理及化學、地理、農業、家事ノ學科目ト聯絡シテ教授スヘシ

物理及化學

本科第一部

男生徒ノ部

○第二學年

每週三時

凡六十時

物理

物質、質量、密度、單位、運動、速度、慣性、力、力ノ釣合、重力、分子力、彈性、液體ノ壓力

比重、表面張力、毛管現象、氣體ノ壓力

熱

溫度、熱量、比熱、膨脹、三態ノ變化、潛熱、濕度、熱ノ移動

物理

物質、質量、密度、單位、運動、速度、慣性、力、力ノ釣合、重力、分子力、彈性、液體ノ壓力

比重、表面張力、毛管現象、氣體ノ壓力

熱

溫度、熱量、比熱、膨脹、三態ノ變化、潛熱、濕度、熱ノ移動

物理

物質、質量、密度、單位、運動、速度、慣性、力、力ノ釣合、重力、分子力、彈性、液體ノ壓力

比重、表面張力、毛管現象、氣體ノ壓力

熱

溫度、熱量、比熱、膨脹、三態ノ變化、潛熱、濕度、熱ノ移動

物理

物質、質量、密度、單位、運動、速度、慣性、力、力ノ釣合、重力、分子力、彈性、液體ノ壓力



音

音波 速度 反射 強サ 高サ 音色 干涉 共鳴 蓄音機

化學 凡六十時

空氣 酸素 窒素

水 水素

炭素 無水炭素 酸化炭素

元素 化合物

分子說 原子說 化學量論ノ諸定律 分子量 原子量 原子價 化學式

鹽素・臭素・沃素・弗素及其ノ化合物

酸素・硫黃及其ノ化合物

窒素・磷・砒素・あんちもん及其ノ化合物

炭素・珪素及其ノ化合物

硼素及其ノ化合物

○第三學年 每週三時

物理 凡六十時

光

直進 光度 反射 屈折 光學器械 分散

磁氣

磁石 感應 地磁氣

電氣

二重ノ電氣 感應 蓄電器 空中電氣 電流 電池 電流ノ強サ 電動力 電流ノ磁氣作用 電流計 電磁石 電鈴

電信機 電話機 抵抗 電流ノ熱作用 電燈 電熱器 電流ノ化學作用 電氣分解 蓄電池 感應 電流 直流

交流 發電機 電動機 變壓器

化學 凡六十時

なとりうむ・かりうむ及其ノ化合物 あんもにうむ化合物

酸 鹽基 鹽 溶液 電離

かるしうむ・ぱりうむ及其ノ化合物

まぐねしうむ・亜鉛・水銀及其ノ化合物

あるみにうむ及其ノ化合物

錫・鉛・蒼鉛及其ノ化合物

くろむ・まんがん・鐵・こばると・につける及其ノ化合物

銅・銀・金・白金及其ノ化合物

冶金及精鍊 合金

金屬ノ通性 金屬ノいをん化傾向

週期律 稀産元素

○第四學年 每週三時

物理 凡五十五時

力學

力ノ合成及分解 力ノ能率 偶力 重心 物體ノ坐リ 單一器械 運動ノ定律 加速度 萬有引力 落體 拋射體

圓運動 廻轉運動 摩擦 流體ノ抵抗 船及航空機 仕事 えねるぎー 熱ノ仕事當量 熱機關 振子彈性體ノ振

波動

化學 凡五十五時

めたん えちれん あせちれん 石油

あるこーる えーてる あるでひど けとん 木材ノ乾溜



有機酸及其ノえすてる 油脂

炭水化物

石炭ノ乾溜

べんぜん なふたれん あんとらせん

たんニン てるべん類 ごむ

あるかろいど

蛋白質 榮養品

醱酵 腐敗

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ物理及化學ニ關スルモノ) 凡十時

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校ニ於ケル理科教科書ノ研究

第五學年 凡六十時

物理

音・光・電氣ノ補充

絃ノ振動 氣柱ノ振動 音叉 音ノ調和 音階

光波 光ノ干涉 光ノ幅射及吸收 物體ノ色偏光 複屈折

電氣振動 電波 無線電信 無線電話

真空放電 陰極線 X線 放射能

えねるぎノ變遷及不滅

化學 凡三十時

電解質 酸及あるかり定量 膠質

反應熱 反應速度 觸媒 化學平衡

酸化 還元 漂白劑 寫眞

酸及あるかり工業 肥料

珪酸工業

燃料

色染

食物 呼吸及消化ノ化學

化學えねるぎ

無機物ト有機物

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

物理及化學

本科第一部男生徒ノ部ニ準シ小學校理科教授ニ必要ナル物理及化學ノ知識ヲ補習シ且實驗ヲ課スヘシ

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ物理及化學ニ關スルモノ)

本科第一部男生徒ノ部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

○第二學年 每週三時

物理及化學



本科第一部男生徒ノ部ニ準シ小學校理科教授ニ必要ナル物理化學ノ知識ヲ補習シ且實驗ヲ課スヘシ  
小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ物理及化學ニ關スルモノ)

本科第一部男生徒ノ部ニ準ス  
修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週二時

物理及化學

修業年限二年ノモノニ準ス

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ物理及化學ニ關スルモノ)

本科第一部生徒ノ部ニ準ス

專攻科

每週四時

物理

凡八十時

分子力 表面張力 毛管現象

三態ノ變化 製氷 液體空氣

運動ノ定律

萬有引力 天體ノ運動

單一弦運動 波動

仕事 えねるぎ

太陽ノ輻射 えねるぎト氣象

球面鏡 れんず

電流ト磁氣 直流 交流

光ノ速度 光ノ廻折

光波ト電波

物質ノ構造

實驗

長さ・面積・體積ノ測定

天秤

比重ノ測定

氣壓計

表面張力ノ測定

潜熱ノ測定

顯微鏡ノ倍率

分光器

光ノ干涉

ほゐりとすとーんぶりつち

ばるためいた

無線電話機

小學校理科教授ニ必要ナル物理教材ノ研究

化學 凡八十時

物質ノ純否

はろげん・酸性族・窒素族・炭素族ノ性質

あるかり金屬・あるかり土類金屬ノ性質

金屬ノ性質

元素ノ週期系

化學量論ノ諸定律 分子量 原子量



溶液論

反應速度 化學平衡

相律及其ノ應用

熱化學ノ大要

分析化學ノ大要

膠質化學ノ大要

有機化合物

大氣 飲料水 用水

化學工業ノ原料ト製品

實驗

定性分析

定量分析

簡單ナル有機化合物ノ合成

小學校理科教授ニ必要ナル化學教材ノ研究

注意

一、本要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教授事項ヲ舉ケタルモノナリ其ノ選擇排列ニ就キテハ適宜斟酌スルモ妨ナシ

二、生徒實驗ハ本科ニ於テハ大正七年文部省訓令第一號中ノ師範學校物理及化學生徒實驗要目ニ依リ各學年ノ教授事項

ニ關聯シテ授ケ專攻科ニ於テハ本要目ニ準據シ適宜ニ安排シテ之ヲ課スヘシ

法制及經濟

本科第一部

男生徒ノ部

○第四學年及第五學年 每週二時

法制

人ト社會 法制ノ必要

人類ト國家 國家ノ要素 國體 政體

國法 國法ノ種類 國法ノ尊重 權利・義務 國法ト道德

憲法 憲法制定ノ由來 帝國憲法 皇室典範

天皇 皇位繼承 皇室及皇族

臣民 臣民ノ權利・義務 領土 我カ領土

立憲政治 立法・司法・行政 立憲政治ト國民

帝國議會 選舉 議會ノ作用 政黨

國務大臣 國務大臣ノ責任 樞密顧問

司法 裁判所ノ權限 裁判所ノ構成

行政官廳 中央官廳 地方官廳 拓殖官廳 官吏

公共團體 自治團體 自治ノ精神 市町村 府縣 公共組合

行政 行政ノ種類 訴願及行政訴訟

人 法人

法律行為 契約

財產 動產・不動產 物權・債權 財產權ノ尊重

家 家族制度 親子 親族 婚姻

家督相續 遺產相續 遺言

戶籍 本籍 寄留 戶籍手續

民事訴訟 調停 非訟事件 家資分散・破産

犯罪 刑事訴訟 陪審



國際法 條約 外交官・領事官 國際協同 國際聯盟 國交ト國民

經濟

經濟ノ基礎觀念 經濟ノ發達 社會ト經濟  
生産 自然・勞力・資本 農業 工業 分業・協力 企業 會社・産業組合  
交易 價值・價格 物價 貨幣 度量衡 金融機關 信用・信用證券 商業 交通  
分配 地代 賃銀 利子 利潤  
消費 所得 家計 勤儉・貯蓄 保險 生活改善  
我カ國ノ産業 國土ノ開拓 海外發展  
社會問題 社會政策  
財政 租稅・手數料 官業及國有財産ノ收入 公債 豫算・決算 地方財政 我カ國ノ財政

女生徒ノ部

○第四學年及第五學年

每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第二學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年

每週二時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

注意

- 一 本要目ニ掲ケタル事項ハ教授上ノ都合ニ依リ經濟ヲ前ニシ法制ヲ後ニスルモ可ナリ又初ヨリ法制ト經濟トヲ並行シ若ハ兩者ヲ結合シテ授クルモ可ナリ
- 二 法制及經濟ハ成ルヘク事例ヲ生徒ノ日常生活ニ於ケル經驗ニ求メ理論ニ偏セスシテ實用ヲ主トシ且道德的情操ノ陶冶ニモ留意スヘシ
- 三 法制ハ努メテ制度ノ本旨及由來ノ大要ヲ授クルコトニ留意スヘシ
- 四 法制及經濟ハ修身・歴史其ノ他ノ學科目ト聯絡裨補シテ教授シ一層公民教育ノ徹底ニ力ムヘシ

本科第一部

男生徒ノ部

○第三學年

每週二時

耕種

食用作物・工藝作物・園藝作物ノ栽培・利用・需給

養蠶

蠶 飼育 繭 生絲

實習及實驗

○第四學年

每週二時

耕種

園藝作物ノ栽培・利用・需給

畜産



家畜ノ蕃殖・飼養・管理・利用・需給  
土壤及肥料

土壤ノ分類及性質 土壤ト肥料 主要ナル肥料 肥料ノ配合・施用・評價  
林業

林樹 造林 保護 利用 需給  
實習及實驗

小學校ニ於ケル農業教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意  
農業施設上ノ研究

○第五學年 每週二時

耕種

育種 栽培 農具

農業經濟

農業ノ要素 農業組織 農業管理 農業簿記 農業ノ生産 農業政策 農村ノ發達 農村生活  
實習及實驗

女生徒ノ部

○第四學年 每週二時

耕種

作物ノ栽培・利用・需給 土壤及肥料  
養蠶及畜産

養蠶 製絲 家畜ノ飼養・利用

實習及實驗

○第五學年 每週二時

耕種

作物ノ栽培・利用 庭園

農業經濟

農家經濟 農村生活  
實習及實驗

小學校ニ於ケル農業教授法ノ一班

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

本科第一部男生徒ノ部第三學年第四學年及第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部女生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週二時

本科第一部女生徒ノ部第五學年ニ準ス

專攻科男生徒ノ部

每週五時

農業生産

耕種・畜産 尙林業・水産ヲ加フルコトヲ得  
農業經濟

農業經營 農業政策 農村生活



調查研究

農事調査 農村研究  
實習及實驗

小學校ニ於ケル農業教授ノ研究

注意

- 一 農業ノ教授ハ農業ノ技術及經營ニ關スル事項ヲ調和セシメ以テ農村生活ノ實際ニ歸結セシムルヲ要ス
- 二 農業生産ニ關スル事項ハ努メテ土地ノ實情ニ順應セシムヘシ

水産

水産ヲ加フル場合ニハ前ニ掲ケタル要目ヲ省略シ土地ノ情況ニ應シ凡二十五時以內ヲ以テ適宜左ノ事項ヨリ選擇シテ授クヘシ

商業

本科第一部

男生徒ノ部

○第三學年

每週二時

商事要項

總論

商及商業 商業ノ種類 會社 取引用具 有價證券 商業ノ經理 商業機關  
賣買

方法 要件 手續 輸出入ノ手續

○第四學年

每週二時

商事要項

金融

普通銀行 特種銀行 銀行以外ノ金融機關 金融機關ノ監督

交通

鐵道 海運 通信

保險

海上保險 火災保險 生命保險 其ノ他ノ保險 再保險及共同保險

取引所

倉庫

小學校ニ於ケル商業教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

○第五學年

每週二時

商業簿記

單式簿記

財產 資本 勘定科目 帳簿記入法 決算 例題記帳

複式簿記

取引 貸借及仕譯 勘定科目 仕譯練習 帳簿記入法 決算 例題記帳

單複二式ノ比較及轉換手續

教授上ノ都合ニ依リ複式簿記ヲ前ニシ單式簿記ヲ後ニスルモ可ナリ此ノ場合ニハ教材ヲ相當ニ按排スヘシ

女生徒ノ部

○第四學年

每週二時

商事要項

總論



商及商業 商業ノ種類 會社 取引用具 有價證券 商業ノ經理 商業機關  
賣買

金融 方法(取引所ニ於ケル賣買ヲ加フ)要件 手續

交通 普通銀行 特種銀行 銀行以外ノ金融機關

鐵道 海運 通信

保險  
倉庫

○第五學年 每週二時

商業簿記

男生徒ノ部ニ準ス

小學校ニ於ケル商業教授法

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週三時

本科第一部女生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部女生徒ノ部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週二時

本科第一部女生徒ノ部第五學年ニ準ス

專攻科

每週五時

商事要項

株式會社

貨幣

信託業

外國爲替

運賃

船荷證券及傭船契約

海損

保險約款

取引所

倉庫證券

關稅

商業實踐

教授上ノ都合ニ依リ適當ノ時期ニ纏メテ之ヲ課スルモ可ナリ

簿記

銀行簿記

工業簿記

小學校ニ於ケル商業教授ノ研究

注意



- 一 商事要項ハ商業ニ對スル十分ナル理解ヲ與フルト共ニ成ルヘク其ノ地方ノ商業ト聯絡シテ教授スヘシ
- 二 諸證券及各種書類ハ成ルヘク雛形ヲ示シ又生徒ヲシテ實地記入ノ練習ヲナサシムヘシ
- 三 簿記ハ記帳練習ニ重キヲ置キ計算ノ際ハ珠算ニ依ラシムヘシ
- 四 生徒ヲシテ成ルヘク其ノ地方ノ商工機關、貨物ノ集散、交通機關等ニ就キテ見學セシムヘシ

本科第一部

男生徒ノ部

每週二時

楷書 行書

大字・細字ノ練習

黑板上ノ練習

○第二學年

每週一時

行書 平假名

大字・細字ノ練習

黑板上ノ練習

○第三學年

每週一時

草書 平假名

大字・細字ノ練習

黑板上ノ練習

小學校ニ於ケル書キ方教授法

教授ノ要目 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校書キ方手本ノ研究

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

注意

- 一 文字ノ各體ヲ授クルニ當リテ間架結構ノ大要ヲ授クヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナランコトヲ主トシ徒ニ繁雜ナル書論ニ涉ルコトヲ避クヘシ
- 二 片假名ハ楷書ト共ニ之ヲ授クヘシ
- 三 硬筆習字ヲ加フルモ妨ナシ

圖畫

本科第一部

男生徒ノ部

每週二時

寫生畫 臨畫

幾何形體 器物 模型 植物 動物

考案畫

一般圖案法 單獨模樣ノ構成 二方連續模樣ノ構成

幾何畫

直線 角 圓 多角形 曲線

點 線 面ノ立面圖・平面圖・側面圖

○第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 模型 植物 動物

考案畫



輪廓模様ノ構成 四方連続模様ノ構成  
幾何畫

立體ノ立面圖・平面圖・側面圖・展開圖・切斷圖・等角圖

○第三學年 每週一時

寫生畫

器物 植物 動物 建築物 石膏模型 人物 風景

考案畫

不規則的構成ニヨル各種ノ裝飾圖案 立體圖案

幾何畫

透視畫法

黑板上ノ練習

略畫ノ描出

○第四學年 每週一時

寫生畫

各種ノ靜物 建築物 人物 風景 活動セル動物及人物

考案畫

各種應用圖案

黑板上ノ練習

稍々複雑ナル描出 色ちよく使用ノ方法

小學校ニ於ケル圖畫教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校ニ於ケル圖畫教科書ノ研究

○第五學年 每週一時

寫生畫

前學年ニ準ス

考案畫

前學年ニ準ス

黑板上ノ練習

前學年ニ準ス

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週一時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週一時

本科第一部男ノ生徒部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週一時

本科第一部男生徒ノ部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週一時

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス



專攻科 每週二時

寫生畫 考案畫

本科ヨリ程度ヲ高メタル實習

美術史ノ大要

鑑賞及研究

小學校ニ於ケル圖畫教授ノ研究

注意

- 一 自在畫教授ノ際ニハ成ルヘク陰影畫法及透視畫法ニ就キ簡易ニ其ノ理法ヲ説明シ又時時記憶畫及見取畫ノ練習ヲナサシムヘシ
- 二 色彩ニ關シテハ適當ノ時期ニ於テ著色法ノ外三原色・間色・再間色及其ノ明色ト暗色トノ區別ヲ知ラシメ更ニ色ノ性質・對比・色彩配合ノ調和等ヲ教示スヘシ
- 三 描寫ニハ主トシテ鉛筆・毛筆ヲ用ヒシメ尙ペン・木炭・こんてー・色鉛筆・くれよん・ばすてる・水繪具・油繪具等ノ描畫ニ就キ成ルヘク多樣ニ亘リテ其ノ使用ヲ理解セシムヘシ
- 四 生徒ヲシテ成ルヘク名作品又其ノ複製品ヲ鑑賞セシメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週一時

竹細工

普通ノ竹細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

木工

鉋削及鋸斷練習 簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

○第二學年 每週二時

粘土細工 石膏細工

普通ノ粘土細工及之ヲ石膏ニ寫スコト 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

木工

簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

○第三學年 每週一時

木工

學用品及理科簡易器械ノ製作 木器裝飾法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

粘土・紙・絲紐・布片等ノ細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

○第四學年 每週一時

金工

針金細工 板金細工 工具ノ使用法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

○第五學年 每週一時

金工

簡易ナル日用器具ノ製作 銅・黃銅・鐵・鋼等ノ加工法 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

女生徒ノ部

○第一學年 每週一時



竹細工

普通ノ竹細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

編物・袋物・造花・刺繡ノ一種若ハ二種

普通ノ編物・袋物 簡易ナル造花・刺繡材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

○第一學年 每週一時

編物・袋物・造花・刺繡ノ一種若ハ二種

前學年ニ準ス

粘土細工

普通ノ粘土細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

○第三學年 每週一時

編物・袋物・造花・刺繡ノ一種若ハ二種

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル各種ノ細工

粘土・紙・絲紐・布片等ノ細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法

每週一時

木工

簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

男生徒ノ部ニ準ス

○第五學年 每週一時

木工

簡易ナル日用器具及學用品ノ製作

金工

針金細工 板金細工 工具ノ使用法

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

木工

簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

粘土・紙・絲紐・竹・針金等ノ細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

小學校ニ於ケル手工教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週一時

竹細工 粘土細工

普通ノ竹細工及粘土細工 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

編物・袋物・造花・刺繡ノ一種若ハ二種

本科第一部女生徒ノ部ニ準ス

小學校ニ於ケル各種ノ細工

本科第一部女生徒ノ部ニ準ス



○第二學年 每週一時

木工

簡單ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質・用法 工具ノ使用法及手入法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

本科第一部ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週二時

編物・袋物・造花・刺繡ノ一種若ハ二種

本科第一部女生徒ノ部ニ準ス

小學校ニ於ケル各種ノ細工

本科第一部女生徒ノ部ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

本科第一部男生徒ノ部第四學年ニ準ス

專攻科 每週二時

木工 金工

日用器具・學用品及理科簡易器械ノ製作

木工・金工ニ必要ナル機械ノ構造及使用法 材料ノ種類・性質・用途及加工法

製圖及設計

諸種ノ製圖及設計

工業大意

工業ノ發達・種類及之ニ關スル經濟等

小學校ニ於ケル手工教授ノ研究

注意

一 土地ノ情況ニ依リ前記諸細工ノ外便宜藁・麥稈・蔓等ノ細工ヲ授クヘシ

二 製作ノ際ニハ成ルヘク先ツ工作圖ヲ作ラシムヘシ

三 圖畫トノ聯絡ハ勿論物理及化學トノ關係ニモ注意スヘシ

四 工業上特ニ必要ナル器具・機械ハ成ルヘク講話・見學等便宜ノ方法ニ依リテ其ノ知識ヲ與フヘシ

五 日用器具・學用品及理科簡易器械ノ製作ニ於テハ模式物品ヲ作ラシムルト共ニ工夫製作ヲ課シテ創作ノ能ヲ養ハシムヘシ

音樂

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

基本練習

發聲發音ノ練習 音階練習 音程練習 聽音練習 呼吸練習及拍子練習

歌曲

平易ナル單音唱歌 尙簡易ナル二部ノ輪唱歌竝複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

樂曲

譜表 音名 音部記號 音符 休止符 縱線拍子 嬰變及本位記號 音程論 音階論(長旋法・嬰變兩種) 速度標語

發想記號及雜記號

○第二學年 每週二時

基本練習



前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌及簡易ナル重音唱歌

樂典

「おるがん」ノ構造及各部ノ名稱 其ノ使用法竝注意 音階論(短旋法 嬰變兩種 雅樂旋法 俗樂旋法)裝飾記號 略

記號

樂器

「おるがん」ノ基礎的練習及簡易ナル樂曲但シ「びあの」若ハ「ばいおりん」ノ奏法ヲ授クルコトヲ得

○第三學年 每週一時

基本練習

前學年ニ準シ程度稍々進ミタルモノ

歌曲

單音唱歌 輪唱歌 諸重音唱歌

樂典

移調 轉調

樂器

前學年ニ準ス

○第四學年 每週一時

基本練習

前學年ニ準シ程度稍々進ミタルモノ

歌曲

前學年ニ準シ程度稍々進ミタルモノ

樂典

前學年ニ準ス樂器前學年ニ準シ程度稍々進ミタル樂曲竝進行曲

小學校ニ於ケル唱歌教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具及教授上必要ナル注意

小學校ニ於ケル唱歌教科書ノ研究

○第五學年 每週一時

基本練習

前學年ニ準シ程度稍々進ミタルモノ

歌曲

前學年ニ準シ程度稍々進ミタルモノ

樂典

簡易ナル樂語 和聲學初步

樂器

前學年ニ準ス

女生徒ノ部

○第一學年第二學年及第三學年

○第四學年及第五學年

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

基本練習 歌曲 樂典大要 樂器使用法



本科第一部男生徒ノ部第二學年第三學年及第四學年ニ準ス  
小學校ニ於ケル唱歌教授法ノ一斑

女生徒ノ部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

基本練習 歌曲 樂典大要 樂器使用法

本科第一部男生徒ノ部第二學年第三學年ニ準ス

○第二學年 每週一時

基本練習 歌曲 樂器使用法

本科第一部男生徒ノ部第四學年及第五學年ニ準ス

小學校ニ於ケル唱歌教授法ノ一斑

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週一時

修業年限二年ノモノノ第二年ニ準ス

專攻科

基本練習

本科ニ準シ程度進ミタルモノ

歌曲

本科ニ準シ程度進ミタルモノ

特ニ新譜ニ就キテ應用的讀譜ノ練習ヲ課スヘシ

理論

樂典大要 樂式初步

### 和聲學

樂器

本科ヨリ程度進ミタル樂曲

小學校ニ於ケル唱歌教授ノ研究

注意

一 唱歌及樂器ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ

二 指揮法ハ本科第一部第四學年及第五學年ニ於テ適宜之ヲ授クヘシ

三 歌曲ハ歌詞曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ又小學校ニテ用ヒラルル唱歌ハ必ス練習セシムヘシ

四 音程練習ハ系統的ナルヲ要ス

五 讀譜力及鑑賞力ノ養成ニカムヘシ

家事

本科第一部

○第四學年 每週二時

住居

土地 家屋 屋外ノ設備

右ノ教材ニ關聯シテ家具什器ノ選擇及保存ニ關スル事項竝住居ニ關スル法令ノ必要ナル部分ヲ授クヘシ

食物

營養及營養素 食品ノ種類・成分・性質 鑑別及供給 人體ノ要スル食量 調理 獻立 貯藏

右ノ教材ニ關聯シテ食器庖廚具及燃料等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

衣服

材料 性質 調製 附屬品 寢具 整理・保存及容器

實習



掃除 家具什器ノ手入 飲食物ノ調理 洗濯 しみぬき 張物 火のし 湯のし

○第五學年 每週二時

養老及看病

衣食住ノ注意 介抱 藥用 日常罹リ易キ疾病ノ手當 傳染病及豫防消毒 救急處置 危篤者ノ取扱  
育兒

婦人衛生 妊娠及分娩 嬰兒ノ取扱 哺乳 離乳前後ノ注意 小兒ノ衣食住 睡眠 便通

家事經濟

家計簿記

實習

飯食物ノ調理

小學校ニ於ケル家事教授法

本科第一部

修業年限二年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部第四學年ニ準ス

○第二學年 每週二時

本科第一部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部第四學年及第五學年ニ準ス

專攻科 每週二時

家事ニ關スル理科

家事ニ關スル經濟

其ノ他家庭生活ニ關スル事項

實習

まつさーじ 染物 飲食物ノ調理

小學校ニ於ケル家事教授ノ研究

注意

一 家事ノ教授ハ土地ノ事情ニ適切ナラシメンコトニ注意スヘシ

二 家事ノ教授ハ理論ニ偏スルコトナク成ルヘク實習ヲ多カラシメ又必要ナル事項ニ就キテハ便宜見學セシムヘシ

三 他ノ學科目ニ於テ授ケタル事項ハ努メテ之ヲ家事ノ實際ニ應用セシムヘシ

裁 縫

本要目中單ニ衣類ノ名稱ノミヲ掲クルモノハ仕上ケニ至ル迄生徒ヲシテ實習セシメ「説明」ノ二字ヲ加フルモノハ必要ナル事項ノ説明ニ止メテ實地ノ仕立ヲ省クヘシ又×印ヲ附スルモノハ土地ノ情況ニ依リテ之ヲ省クコトヲ得

本科第一部

○第一學年 每週四時

基礎的技術ノ練習

本裁男女單衣

小裁、中裁單衣

長著裁方各種 並幅、廣幅

綿布ノ繕方

女袴

同上小裁、中裁ノ説明

本裁男女袴



單襦袢ノ説明  
袷長襦袢

○第二學年

每週四時

本裁男女袷羽織

腹合帯

みしん使用法

下著

ゑぶろん

本裁女物綿入羽織

羽織裁方各種

小裁・中裁綿入羽織ノ中一枚實習

被布ノ説明

本裁綿入男女隨意

各種地質ニ對スル取扱

絹布・毛布ノ繕方

○第三學年

每週三時

本裁單衣(毛布)男女隨意

本裁女物單町(絹布)

女兒服 帽子

男袴

同上小裁・中裁ノ説明

×外套 けいぶ

男兒服

足袋

○第四學年

每週二時

しやつ づばん下

單羽織男女隨意

×簡單ナル婦人洋服

夜著・蒲團類ノ説明

袷半こいと

長こいとノ説明

小學校ニ於ケル裁縫教授法

教授ノ要旨 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法 教授用具教授上必要ナル注意

○第五學年

每週二時

本裁重(袷又ハ綿入)男女隨意

本裁單衣重ノ説明

比翼ノ説明

丸帯・男帯ノ説明

股引

小學校ニ於ケル兒童服ノ研究

本科第二部

修業年限二年ノモノ

○第一學年

每週二時

本科第一部第四學年ニ準ス



○第二學年 每週二時

本科第一部第五學年ニ準ス

修業年限一年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第一部第四學年及第五學年ニ準ス

專攻科 每週三時

絹布ノ長著

羽織

帶

婦人洋服

教材ノ隨意研究

小學校ニ於ケル裁縫教授ノ研究

注意

一 材料ハ本科第一部第二學年以上ニ在リテハ適宜絹布ノ類ヲ併セ用ヒシムヘシ

二 材料ニ依リ手縫トみしん縫トヲ適宜ニ用ヒシムヘシ

三 學習ヲ經濟的ナラシムル爲各教材ノ取扱竝相互ノ聯絡ニ注意スヘシ

四 實習ノ際家事圖畫ト聯絡ヲ保チテ便宜服地ノ種類・其ノ鑑別法・色ノ配合・染色・洗濯等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

五 學習ハ常ニ研究的態度ヲトラシムヘシ

哲學

專攻科 每週三時

哲學ノ概念

東西哲學思想發達ノ大要

實在ノ問題(形而上學)

實在ノ量 實在ノ質 實在ト現象

知識ノ問題(認識論)

認識ノ起原 認識ノ限界 認識ノ對象

人生ノ問題(價值論)

科學 道德 藝術 宗教

社會 歷史

注意

一 現代ノ文化ニ關スル事項ニ重キヲ置キ之ニ對スル理解ト批判力トヲ得シメンコトヲ要ス

二 體系的の論述ノ際ニモ適宜之ニ關係アル歷史的の敘述ヲ加フヘシ

三 修身・教育・歷史・法制及經濟等ノ學科目トノ聯絡ニ注意スヘシ

師範學校規程中改正

大正十五年四月二十二日  
文部省令第十九號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第二十四條中「及遊戲」ヲ、「遊戲及競技」ニ、「擊劍及柔術」ヲ「劍道及柔道」ニ改ム

第四十一條 「及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ」ヲ削ル

第四十六條中「擊劍及柔術」ヲ「劍道及柔道」ニ改ム

第五十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム



私費生ヲ置キタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ員數ヲ文部大臣ニ届出ツヘシ

第六十三條中「文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ」ヲ「之ヲ定ム文部大臣ニ届出ツヘシ」ニ改ム

第七十四條中「期間ヲ定メテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ」ヲ削リ「又ハ市町村立」ヲ「又ハ公立」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

第七十五條中「及附屬幼稚園」、第九十五條乃至第二百二條、第二百六條、第二百七條ヲ削リ「第三十五條第一項及

第四項、第三十七條、第三十八條」ヲ「第三十五條第一項第二項及第五項第三十七條」ニ、「第三十一條第四項、第四十  
四條、第四十六條」ヲ「第五十二條」ニ改ム

第七十五條ノ二 附屬幼稚園ニハ幼稚園令第一條、第六條、幼稚園令施行規則第一條乃至第六條、第十八條、第十九條

第二十三條ヲ準用ス但シ幼稚園令施行規則第十八條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第七十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

附屬幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ヲ掌ル者ハ保母免許狀又ハ小學校ノ正教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

### 附 則

本令施行ノ際現ニ附屬幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ヲ掌ル者ニシテ第七十九條第二項ニ該當セサル者ハ大正十五年五月三十  
一日迄仍從前ノ例ニ依ル

### 高等師範學校及女子高等師範學校生徒募集規程制定ノ件

大正十五年八月二十七日  
文部省令第二十八號

高等師範學校及女子高等師範學校生徒募集規程左ノ通定ム

高等師範學校及女子高等師範學校生徒募集規程

第一條 高等師範學校文科、理科、體育科、教育科及專修科ノ生徒ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ身體健全品行方正ニシテ出

身學校長ノ推薦シタル者ニ就キ試験ノ上之ヲ選拔ス但シ第三號又ハ第四號ニ該當スル者ニ付テハ高等師範學校長ニ於

テ出身學校長ノ推薦ニ代ルヘキ適當ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

一 師範學校又ハ中學校ノ卒業生

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業生ニ付一般ノ專門學校入學ニ關シ中學校ノ卒業生ト同等以上ノ學力ヲ有スル  
者トシテ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ノ卒業生

三 前號ノ外專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

第二條 女子高等師範學校文科、理科、家事科及專修科ノ生徒ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ身體健全品行方正ニシテ出身學  
校長ノ推薦シタル者ニ就キ試験ノ上之ヲ選拔ス但シ第三號又ハ第四號ニ該當スル者ニシテハ女子高等師範學校長ニ於  
テ出身學校長ノ推薦ニ代ルヘキ適當ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

一 師範學校又ハ高等女學校ノ卒業生

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業生ニ付一般ノ專門學校入學ニ關シ修業年限四年以上ノ高等女學校卒業生ト同  
等以上ノ學力ヲ有スル者トシテ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ノ卒業生

三 前號ノ外專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ノ入學志願者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入學ヲ許サス

一 身體虛弱ナル者

二 精神機能ニ障碍アル者



- 三 急治ノ見込ナキ重症トテホームヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ〇・五以上ニ矯正シ得サル視力障碍ヲ有スル者
  - 四 高度ノ色神障碍ヲ有スル者
  - 五 著シキ聽力障碍又ハ言語障碍ヲ有スル者
  - 六 高度ノ脊柱彎曲、著シキ畸形又ハ運動障碍ヲ有スル者
  - 七 肺其ノ他ノ機關ニ結核性疾患アル者
  - 八 癩ヲ患フル者
  - 九 重症心臟疾患ヲ患フル者
  - 一〇 悪性腫瘍、腎臟疾患、糖尿病又ハ重症貧血ニ罹リ急治ノ見込ナキ者
  - 一一 花柳病又ハ重症ヘルニアヲ患フル者
  - 一二 其ノ他修學上ニ妨アル持久性疾患又ハ異常アル者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾患アル者
- 第四條 高等師範學校長及女子高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一條又ハ第二條ニ規定シタル事項ノ外生徒推薦ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 第一條及第二條ニ規定シタル選抜試験ノ學科目及其ノ程度、期日、場所、募集人員、出願手續其ノ他必要ナル事項ハ當該學校長ニ於テ豫メ官報ヲ以テ公告ス
- 第六條 高等師範學校及女子高等師範學校ノ生徒募集ニ關スル細則ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當該學校長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校生徒募集規則及女子高等師範學校生徒募集規則ハ之ヲ廢止ス

直轄諸學校官制中改正

昭和二年九月十四日  
勅令第二百八十七號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第十六條第一項中「及訓導」ヲ「訓導及保姆」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

教諭及助教諭ハ教員志望者及中等部生徒ノ教育ヲ、訓導ハ初等部生徒ノ授業ヲ、保姆ハ初等部豫科幼兒ノ保育ヲ掌ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

直轄諸學校官制中改正

昭和二年十二月二十七日  
勅令第三百六十五號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第十條ノ二 助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス

第十一條第一項中「高等師範學校ニ助手ヲ」ヲ、同條第二項中、「助手」ヲ、同條第五項ヲ削ル

附 則



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 師範學校規程中改正

昭和二年十一月二日  
文部省令第十九號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第四十三條中「天長節祝日及一月一日」ヲ「天長節、明治節及一月一日」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 直轄諸學校官制中改正

昭和三年十月二十九日  
勅令第二百五十六號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第六條中「生徒監」ヲ「生徒主事」ニ改メ「書記」ノ次ニ「生徒主事補」ヲ加フ

第九條 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校

ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條ノ二ヲ第十條ノ三トス

第十條ノ二 文部省直轄諸學校定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ

學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 高等師範學校官制制定

昭和四年四月一日  
勅令第三十九號

朕高等師範學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等師範學校官制

第一條 東京文理科大學ニ東京高等師範學校ヲ、廣島文理科大學ニ廣島高等師範學校ヲ附置ス

第二條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第三條 高等師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教授

教諭

生徒主事

助教授

助教諭

訓導

助手

書記



生徒主事補

- 第四條 學校長ハ文理科大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス  
 學校長ハ文理科大學長ノ監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
- 第五條 教授ハ奏任、助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル
- 第六條 生徒主事ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル
- 第七條 助手ハ判任トス教授及助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス
- 第八條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
- 第九條 生徒主事補ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク
- 第十條 教諭ハ奏任、助教諭ハ判任トス附屬中學校ノ生徒ノ教育ヲ掌リ兼ネテ高等師範學校生徒ノ教育實習ヲ監督ス  
 訓導ハ判任トス附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ高等師範學校生徒ノ教育實習ヲ監督ス
- 第十一條 高等師範學校專任職員ノ定員左ノ如シ

東京高等師範學校	廣島高等師範學校	教授	助教諭	主事	生徒	助教授	助教諭	訓導	助手	書記	主事	生徒
五十五人	四十九人	二十一人	十二人	一人	八人	八人	八人	二十人	二人	七人	一人	一人
二十一人	十二人	一人	一人	十三人	七人	十三人	三人	三人	十人	一人	一人	一人

第十二條 文部大臣ハ高等師範學校ノ教官ノ中ヨリ附屬學校主事ヲ命シ附屬學校ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東京高等師範學校又ハ廣島高等師範學校ノ教授、教諭、生徒主事、助教授、助教諭、訓導、助手、書記

又ハ生徒主事補ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各東京高等師範學校又ハ廣島高等師範學校ノ教授、教諭、生徒主事、助教授、助教諭、訓導、助手、書記又ハ生徒主事補ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス  
 本令施行ノ際現ニ東京高等師範學校ノ教授ニシテ休職ノ者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ休職ノ儘東京高等師範學校ノ教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラタルモノトス

直轄諸學校官制中改正(抄)

昭和四年四月一日  
 勅令第四十號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「東京高等師範學校」、「廣島高等師範學校」、「神戸高等商業學校」、「東京高等工業學校」、「大阪高等工業學校」ヲ削ル

第二條削除

第十一第一項ヲ左ノ如ク改ム

第六條ニ掲クル職員ノ外女子高等師範學校ニ教諭、助教諭、訓導及保母ヲ置ク

同條ヲ第三項中「附屬中學校又ハ」ヲ削ル

第十八條中「高等師範學校」ヲ削リ「東京高等工業學校大阪高等工業學校」ヲ「名古屋高等工業學校、横濱高等工業學校」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所官制中改正

昭和四年四月一日  
 勅令第四十二號

朕臨時教員養成所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



臨時教員養成所官制中左ノ通改正ス

第二條中「帝國大學」ノ下ニ「高等師範學校」ヲ加フ

第三條中「帝國大學總長」ノ下ニ「高等師範學校長」ヲ加フ

**東京高等師範學校專攻科又ハ廣島高等師範學校德育專攻科卒業者**

稱號ノ件 昭和五年三月五日 勅令第三十六號

朕東京高等師範學校ノ專攻科又ハ廣島高等師範學校ノ德育專攻科卒業者ノ稱號ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
昭和五年三月三十一日以前ニ於テ東京高等師範學校ノ專攻科又ハ廣島高等師範學校ノ德育專攻科ヲ卒業シタル者ハ文學士ト稱スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**臨時教員養成所規程中改正**

昭和五年四月一日 文部省令第三號

臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第一條中「體操科」ノ下ニ「圖畫手工科」ヲ加フ

第七條ノ九 圖畫手工科ノ學科目ハ修身、教育、圖畫、手工、英語、數學、物理及化學、動物及植物、體操トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**師範學校長勤績加俸令中改正**

昭和六年六月一日 勅令第二百二十二號

朕師範學校長勤績加俸令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範學校長勤績加俸令中左ノ通改正ス

別表ヲ左ノ如ク改ム

(別表)

勤 績 年 數	勤 績 加 俸 年 額
五年以上十年未満	九十六圓乃至百二十圓
十年以上十五年未満	百四十四圓乃至百六十八圓
十五年 以上	百九十二圓乃至二百五十二圓

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ勤績加俸ヲ受クル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ其ノ百分ノ九十一ノ額ヲ受ク但シ所定ノ最高限ヲ超ユルゴトヲ得ス

前項ノ定數ニ依リ計算スル金額圓位未満ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

**師範學校規程中改正**

昭和六年一月十日 文部省令第一號

師範學校規程中左ノ通改正ス

第二條 本科ハ之ヲ第一部及第二部トス但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ一ヲ置カサルコトヲ得



第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本科第二部ノ修業年限ハ二年トス

第五條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外第四學年以上ニ在リテハ國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第六條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外第四學年以上ニ在リテハ國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第七條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

實業學校(尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校及之ト同等以上ノ實業學校但シ實業補習學校ヲ除ク)ヲ卒業シタル生徒ニハ當該學校ニ於テ學修シタル實業ヲ課セサルコトヲ得

第八條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、家事、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂

ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第九條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ鞏固ナル意志ヲ鍛鍊シ殊ニ我カ國體ニ關スル信念ヲ養ヒ教育者タルノ人格ヲ陶冶シ實踐躬行ニ導キ且小學校ニ於ケル修身教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ就中我カ國民道德ノ由來ト特質トヲ悟ラシメ建國ノ體制及國體ノ本義ヲ明ニシ國家、社會及家ニ對スル責務竝ニ人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ更ニ倫理學ノ概要ト社會生活ノ理論ノ一斑トヲ理解セシムルト共ニ時代思想ニ對スル正シキ批判力ヲ養ヒ道德的信念ヲ確立セシムルニ力メ且作法及教授法ヲ授クヘシ

第十條 公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活竝ニ社會生活ヲ完ウスルニ足ルヘキ知徳ヲ涵養シ殊ニ憲法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會得セシメ公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成シ小學校ニ於ケル公民教育ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

公民科ハ憲政自治ノ本義ヲ明ニシ日常生活ニ適切ナル法制上、經濟上竝ニ社會上ノ事項ヲ授クヘシ

第十一條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ理論及方法ヲ詳ニシ教育者タルノ精神ヲ養ヒ教育ヲ樂シムノ念ヲ培養スルヲ以テ要旨トス

教育ハ心理學、論理學、教育學、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ概要、教育制度、學校ノ經營及管理、學校衛生等ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ尙女生徒ニ就テハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十二條 國語漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ發表シ文字ヲ端正ニ書寫スルノ能ヲ得シメ國民性ヲ涵養シ文學上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓發ニ資シ且小學校ニ於ケル國語教育ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

國語漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ヨリ上古ノ國文ニ及ホシ又平易ナル漢文ヲ授ケ言語ノ使用ニ練熟セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル國文ヲ作ラシメ國語文法及國文學史ノ大要竝ニ習字ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘ



第十三條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化發展ノ過程、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我カ國運進展ノ跡ヲ詳ニシ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴無比ナル所以トヲ知ラシメ大義名分ヲ明ニシ國民精神ヲ涵養シ且小學校ニ於ケル國史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

歴史ハ國史及外國史トシ國史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷朝ノ鴻德盛業、政治、經濟、産業其ノ他文化ノ發達、對外的關係等ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒテ之ヲ授ケ外國史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、文化ノ發達及我カ國運ノ進展ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十四條 地理ハ地球及人類生活ノ狀態ヲ理解セシメ殊ニ兩者ノ關係ヲ明ニシ我カ國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ國民タルノ自覺ヲ促スニ資シ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理、外國地理及地理概説トシ日本地理ニ於テハ我カ國ノ自然狀態、政治、經濟、産業、交通等ノ狀態竝ニ其ノ關係ヲ明ニシ殊ニ我カ國ノ國勢ヲ詳ニシ外國地理ニ於テハ主トシテ我カ國ト政治、經濟、産業、交通等ニ關シ重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ授ケ地理概説ニ於テハ自然地理及人文地理ノ概要ヲ知ラシメ又地方研究ヲ課シテ地方ノ風土ニ關スル沿革及情勢ヲ理解セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十五條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ノ増進ニ資シ且小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

英語ハ發音、綴字、聽方、讀方及解釋、話方及作文、書取、文法ノ大要竝ニ習字ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十六條 數學ハ數量ニ關スル知識ヲ授ケ計算ニ習熟セシメ思考ヲ精確ナラシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十七條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ人生ニ對スル關係及之カ應用ヲ理解セシメ觀察工夫ノ力ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

理科ハ植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要竝ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十八條 家事ハ家事ニ關スル知識技能ヲ得シメ勤勉、節約、利用、秩序、清潔等ヲ尙フノ念ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル家事教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、一家ノ管理、經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ工夫ヲ練リ節約利用ノ習慣ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方及繕ヒ方等ヲ授ケ又材料ノ性質、用具ノ使用法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十條 實業ハ實業ニ關スル知識技能ヲ授ケ實際生活ヲ理會セシメ職業ノ尊重スヘキ所以ヲ知ラシメ勤勉力行ノ氣風ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル實業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

實業ハ農業、工業若ハ商業ヲ課シ又ハ之ヲ適宜分合シテ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ形象ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ工夫創作ノ力ヲ陶冶シ美感ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ用器畫ニ於テハ主トシテ幾何畫ヲ授ケ又黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル工作ヲ爲スノ技能ヲ得シメ工作ノ趣味ヲ長シ工夫創作ノ



力ヲ陶冶シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス  
手工ハ天然物ノ模造、日用器具ノ製作其ノ他ノ工作ヲ授ケ又材料ノ性質、工具ノ使用及保存ノ方法等ヲ知ラシメ且教  
授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資シ且小學校ニ於ケル唱歌  
教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、重音唱歌、樂典ノ大要及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏ナラシメ快活、剛  
毅、堅忍持久ノ精神及規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養ヒ且小學校ニ於ケル體操教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要  
旨トス

體操ハ體操、教練、遊戲及競技ヲ授ケ且教授方法ヲ授クヘシ

男生徒ニ就キテハ劍道及柔道ヲ加ヘ授クヘシ

第二十五條 本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ第一號表、女生徒ニ就キテハ第二號表ニ  
依ルヘシ

學校長ハ必要アルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ每週教授時數ノ合計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計  
ヲ増減セサル範圍内ニ於テ第一號表又ハ第二號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得

家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂等ノ實習及體操ハ第一號表又ハ第二號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ  
得

學校長ハ第一號表又ハ第二號表ノ增課科目ヲ適宜組合セ其ノ中ニ就キ生徒ヲシテ增課選修セシムルコトヲ得  
教育實習ハ第五學年ニ於テ八週乃至十週専ラ之ヲ課スヘシ

第一號表

學科目	基 本 科 目													學 年		
	修 身	公 民 科	教 育	國 語 漢 文	歷 史	地 理	英 語	數 學	理 科	實 業	圖 畫	手 工	音 樂		體 操	基本科目總時數
	一			六	四	四	四	四	四	一	三	二	五	三四		
	一			六	四	四	四	三	五	一	三	二	五	三四		
	二		二	五	四	四	四	三	四	二	二	一	五	三四	二	
	二	二	四	四	二		二	二	三	二	二	一	四	二八	二	
	二	二	五	四	二		二	二	二	二	二	一	四	二八	二	



增		本															
理	數	英	地	歷	國	基本	體	音	手	圖	裁	家	理	數	英	地	歷
博					語	本科	操	樂	工	畫	縫	事	科	學	語	理	史
物	學	語	理	史	漢	目											
					文	總											
					數	時											
						三四	三	二	三		四		四	四	三		四
						三四	三	二	三		四		五	三	三		四
						三四	三	二	二		四		四	三	三		四
二	二	二	二	二	二	二	一		二		四		三	二			二
二	二	二	二	二	二	二	一		二		四		二	二			二

五三三

第二號表

基		增													
國	教	公	修	學	目	音	手	圖	實	科	理	數	英	地	歷
語	育	民	身	年	增	樂	工	畫	業	物	博	學	語	理	史
漢	科	科	身	年	課					理	物	學	語	理	史
文	身	身	身	年	目					及	物	學	語	理	史
				年	ニ					化	物	學	語	理	史
				年	充					學	物	學	語	理	史
				年	ツ					ヘ	物	學	語	理	史
				年	ヘ					キ	物	學	語	理	史
				第一											
六			一	學											
				年											
				第二											
六			一	學											
				年											
				第三											
五	二		二	學											
				年											
				第四											
四	四	二	二	學											
				年											
				第五											
四	五	二	二	學											
				年											

五三二



課 增		目 科 本 基															
理 博	數	英	地	歷	國	基本科目總時數	體	音	手	圖	實	理	數	地	歷	國	教
物	學	語	理	史	語 漢 文		操	樂	工	畫	業	科	學	理	史	語 漢 文	育
						二六	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
						二六	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六

第二十六條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ第三號表、女生徒ニ就キテハ第四號表ニ依ルヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ本科第二部ニ就キ之ヲ準用ス

教育實習ハ第二學年ニ於テ八週乃至十週專ラ之ヲ課スヘシ

第七條第三項ノ規定ニ依リ實業ヲ課セサル生徒ニ就キテハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三號表

學科目	學年	第一學年		第二學年	
		公	修	公	修
公民科	身	一	二		

合 計	目 科								科 物理及化學
	增課科目ニ充ツヘキ總時數	音 樂	手 工	圖 畫	實 業	裁 縫	家 事	科	
三四									
三四									
三四									
三四	六	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四
三四	六	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四







課 增										目 科 本					
理 數 英 地 歷 文 漢 語 國	博 學 語 理 史 字 文 語	公 民 心 理 及 論 理 科	基 本 科 目 總 時 數	體 操	業 實			裁 縫	家 事	國 語 漢 文					
					商 業	工 業	農 業								
			一七	二	三					三					
			一八	二				四		三					

第二十七條 專攻科ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語漢文、實業、體操トス  
 前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外公民科、心理及論理、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂、體操ノ中ニ其ノ數科目ヲ增課選修セシム  
 專攻科ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語漢文、家事、裁縫、體操トス  
 前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外公民科、心理及論理、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂、體操ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム  
 第二十八條 專攻科ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ第五號表ニ依ルヘシ  
 第二十五條第二項及第四項ノ規定ハ專攻科ニ就キ之ヲ準用ス  
 教育、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂等ノ實習及體操ハ第五號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

第五號表

基 本 學 科 目	學 科 目		男 女 別
	教 育	哲 學	
身 體 操	身 體 操	身 體 操	男 子 女 子
農 業	農 業	農 業	男 子 女 子
工 業	工 業	工 業	男 子 女 子
商 業	商 業	商 業	男 子 女 子
裁 縫	裁 縫	裁 縫	男 子 女 子
家 事	家 事	家 事	男 子 女 子
國 語 漢 文	國 語 漢 文	國 語 漢 文	男 子 女 子
實 業	實 業	實 業	男 子 女 子
圖 畫	圖 畫	圖 畫	男 子 女 子
手 工	手 工	手 工	男 子 女 子
音 樂	音 樂	音 樂	男 子 女 子
心 理 及 論 理	心 理 及 論 理	心 理 及 論 理	男 子 女 子
英 語	英 語	英 語	男 子 女 子
地 理	地 理	地 理	男 子 女 子
歷 史	歷 史	歷 史	男 子 女 子
數 學	數 學	數 學	男 子 女 子
理 學	理 學	理 學	男 子 女 子

合 計	目 目	
	音 樂	手 工
三 四	二 一 四	二 一 四
六	二 一 四	二 一 四
三 四	六	六



合計	科									
	體操	音樂	手工	圖畫	實業			裁縫(女)	家事(女)	物理及化學
					商	工	農			
二七	一〇									二科目以上
二八	一〇									一〇、二科目以上

第二十九條乃至第四十條ノ四削除  
 第四十一條中第二項ヲ削ル  
 第四十五條第一項中「修身」ヲ削リ第二項中「農業、商業」ヲ「實業」ニ改ム  
 第四十六條第一項中「四學級」ヲ「四學級以下」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
 前項ノ教員數ノ外劍道及柔道ニ就キ本科ノ學級數十二以下ナルトキハ教員一人、學級數十三以上ナルトキハ教員二人ヲ増スヘシ實業ニ於テ農業、工業、商業ノ中二科目以上ヲ置ク場合亦同シ

第四十九條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等小學校第二學年ヲ修了シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ  
 第七十一條中「保姆タルヘキ資格ヲ有スル者」ヲ「保姆免許狀ヲ有スル者」ニ改ム

附 則  
 本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

(參照)  
 明治四十年四月十七日文部省令第十二號師範學校規程抄錄

第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得  
 第四條第二項

本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一年、女生徒ニ就キテハ一年又ハ二年トス  
 第五條 削除

第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、農業又ハ商業、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス

第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス



前項學科目ノ外隨意科目シテ英語、農業又ハ商業ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第八條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐射行ヲ勸奨シ師表タルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ倫理學ノ一斑及教授法ヲ授ケヘシ

第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育制度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ヨリ上古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

### 師範學校規程中改正ノ要旨並施行上ノ注意

昭和六年一月二十日  
文部省訓令第一號

北海道廳府縣

今般文部省令第一號ヲ以テ師範學校規程ニ改正ヲ施シタリ

師範學校ニ關スル制度ハ明治十九年公布ノ師範學校令ニ依リテ其ノ大本ヲ確立シ明治四十年制定ノ師範學校規程ニ依リテ從來ノ諸規程ヲ整理統一シタルモノナルガ其ノ後時勢ノ進運ニ伴ヒ數回ニ互リテ規程中ノ條項ヲ改正シ以テ今日ニ及ベリ然ルニ最近ニ於ケル社會ノ趨勢ハ國民教育ノ振興ヲ以テ急務トシ之ガ爲一層優良ナル教員ヲ養成センコトヲ要望シテ止マズ是レ今回規程ノ主要部ニ對シテ重要ナル改正ヲナシ修業年限、學科課程、教授ノ内容等ニ幾多ノ變更ヲ加ヘタル所以ナリ茲ニ改正ノ要旨及施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要ヲ示サントス

一、本科第二部ノ修業年限ヲ二年ニ改メタルコト

明治十九年以來師範學校ハ高等小學校修了程度ノ者ヲ入學セシメ數年ノ長期ニ互リテ師範教育ヲ施スヲ以テ本體トナシタルモノナルガ明治四十年新ニ本科第二部ノ制度ヲ設クルニ及ビ前者ヲ本科第一部トナセリ本來本科第二部ハ本科第一部ノ補充的施設トシテ創メタルモノニシテ中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者ニ對シ短期ノ師範教育ヲ施シ以テ小學校教員ヲラシムルモノナリ而シテ其ノ修業年限ハ男生徒ニ在リテハ一年女生徒ニ在リテハ二年ト規定シタルカ本科第二部創設ノ當初ヨリ一年ノ修業年限ヲ以テ師範教育ヲ施スニ十分ナリト認メタルニアラサルモ當時ノ事情ヲ考慮シ暫ク之ヲ以テ満足シタルニ過キス然ルニ本科第二部ハ年々入學志願者ノ激増ヲ見ルノミナラス其ノ新卒業者ノ數寧ロ本科第一部ノ新卒業者ヲ超ユルノ情況ヲ呈スルニ至レリ斯ノ如クニシテ本科第二部ヲ以テ教員ノ養成所猶本科第一部ノ補充的地位ニ在ラシムルコトハ事實ニ於テ認メ難キニ至リタルヲ以テ今回多年ニ互レル小學校教員養成ノ組織ヲ改メ本科第二部ノ修業年限ヲ二年ニ延長シテ其ノ師範教育ヲ充實シ以テ本科第一部ト對等タラシメ之ト併行シテ共ニ小學校教員養成施設ノ本體タラシムルコトトナセリ

二、特別ノ事情アル場合ニ限り文部大臣ノ認可ヲ受ケ本科第一部又ハ本科第二部ノ内何レカ其ノ一ヲ置カサルヲ得ルコトトナシタルコト

從來ノ本科第一部ハ必ス之ヲ設クヘキモノトシ本科第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルヲ得ルコトトナシタル規定



ヲ改メテ兩者ヲ併セ置クヲ本則トシ唯特別ノ事情アル場合ニ限り文部大臣ノ認可ヲ受ケ兩者ノ内何レカ其ノ一ヲ置カサルヲ得ルコトトナセリ蓋シ本科第一部及本科第二部ハ各其ノ長所ヲ有シ相待チテ教育上ノ實績ヲ擧クヘク又師範學校ニ於テハ汎ク都市町村等ノ各地ヨリノ志望者ヲ收容スルヲ適當トスルヲ以テ高等小學校卒業者ニモ中學校及高等女學校卒業者ニモ入學ノ機會ヲ與ヘテ優良ナル小學校教員ヲ養成センコトヲ期スル必要アリ之ヲ以テ濫ニ其ノ一ヲ缺クカ如キハ慎重ナル考慮ヲ要ス宜シク教育上ノ見地ト地方財政上ノ事情トヲ併セ考ヘテ適當ナル措置ヲ執ルヘキナリ殊ニ本科第二部ノ單獨設置ノ如キハ事全ク創始ニ屬スルヲ以テ一層慎重ニ考慮シ其ノ修業年除ヲ延長シタル實績ニ徴シテ然ル後措置スル所アラントトヲ要ス

### 三、學科課程ニ改正ヲ施シタルコト

學科課程ニ就テハ社會ノ趨勢ト學校教育ノ實情トニ鑑ミ改正ヲ施シタル所尠カラズ從來ノ法制及經濟ハ其ノ教授力概シテ法制及經濟ノ專門的知識ヲ授クルニ傾キ實際生活ニ適切ナラサル嫌アリシニ鑑ミ今回之ヲ廢シ新ニ公民科ヲ設ケテ立憲自治ノ國民トシテ必要ナル教養ヲ與フルコトトナセリ公民科ニ於テハ法制上、經濟上及社會上ノ事項ニ關シ之カ事實的説明ヲナシ以テ道義ニ歸結セシムルヲ旨トシ修身、國語、歷史、地理、實業等ノ諸學科目ト聯絡裨補シテ其ノ教授ノ效果ヲ全ウセンコトヲ期スベキノミナラズ訓練ト相待チテ公民的德操ノ涵養ニ力ムヘキナリ修身ト公民科トハ各獨立ノ學科目トナシタルモ兩學科目ハ極メテ密接ナル關係アルモノナルヲ以テ修身ヲ兼修メテ之カ知識ノ豐富ナル教員ヲシテ公民科ノ教授ニ當ラシムルハ極メテ望マシキコトニ屬ス從來ノ博物、物理及化學ハ之ヲ綜合シテ理科トナセリ是レ理科ニ於テハ必スシモ專門的學術ノ體系ニ泥ムコトナク實際生活上有用ナル理科的知能ヲ與フルヲ旨トシ博物的事項、物理的事項、化學的事項及應用理科ヲ授クルニ適センメンカ爲ナリ而シテ其ノ教授ニ當リテハ殊ニ觀察實驗ニ重キヲ置キテ實際生活ニ裨益スル所多カラシメンコトヲ期スヘシ習字ハ專攻科ノ增課科目中ニ於テ稍專門的ニ學修セシムル爲ニ國語漢文ニ對シテ獨立ノ科目トナシタルドモ本科ニ於テ

ハ國語漢文中ニ於テ之ヲ課スルコトトナセリ是レ習字ヲ國語漢文中ノ一課程トシテ課スルヲ以テ寧ロ學修上利便多シト認ムルニ因ルモノニシテ從來ノ習字ノ教授要旨ハ之ヲ變更セントスル趣旨ニアラサルナリ

從來ノ農業又ハ商業ヲ改メテ實業トシ農業、工業若ハ商業ヲ課シ又ハ之ヲ適宜分合シテ教授事項ヲ定ムヘキモノトナシタルハ教材ノ範圍ヲ擴張スルト同時ニ教材ノ範圍ヲ擴張スルト同時ニ教材畫一ノ弊ニ陥ルコトナク克ク地方ノ情況ニ應シテ適切ナル事項ヲ教授セシメンコトヲ期シタルカ爲ナリ而シテ本科第一部及本科第二部共男生徒ニハ各學年ヲ通シテ之ヲ必修セシメ女生徒ニハ增課科目トシテ之ヲ選修セシムルコトトナセルハ實際生活上ノ教養ヲ一層深カラシメンコトヲ期シタルニ因ルナリ

英語ハ從來男子本科第一部ニ限り必修セシメ女子本科第一部ニ於テハ隨意科目トシテ本科第二部ニハ全ク課スルコトナカリシヲ改メ本科第一部ニハ男女共增課科目トシテ之ヲ選修セシムルコトトナシタルハ教員タル立場ニ於テ一般教養トシテ英語ノ必要ナルヲ認メ且其ノ一般教養ハ男女ニ於テ區別スヘキモノニアラスト認メタルニ因ルナリ

地理ニ於テ新ニ地方研究ヲ課シテ地方ノ行政、經濟、產業、交通、社會等ニ關スル沿革及情勢ヲ理會セシムルコトトナシタルハ生徒卒業ノ後其ノ就職地ニ於テ實際生活ニ適切有用ナル教育ヲ施サシムルノ素養ヲ與ヘンカ爲ナリ

劍道及柔道ハ之ヲ體操中ニ於テ男生徒ニ必修セシムルコトトナセリ是レ劍道及柔道カ我が國固有ノ武道ニシテ實質剛健ナル國民精神ヲ涵養シ心身ヲ鍛鍊スルニ適切ナルヲ認メタルカ爲ニシテ兩者又ハ其ノ一ヲ必修セシメントス

學科目ノ内容ニ就テ改正ヲ加ヘタル點尠カラズ其ノ主要ナルモノヲ擧クレハ從來ニ比シ一層國民精神ヲ涵養センカ爲修身ニ於テ國體觀念ヲ明徴ナラシメ道德的信念ヲ鞏固ニシ穩健中正ナル人生觀ヲ抱カシメンコトヲ期シ國語漢文ニ於テ國民性ノ涵養ニ資スヘキ材料ヲ多カラシメ歷史ニ於テ外國史ヲ稍簡略ナラシメテ國史ヲ一層精深ニシ地理ニ於テ外國地理中特ニ政治、經濟、產業、交通等ニ關シ我カ國ト密接ナル關係アル地方ヲ審ニシテ國民的自覺ヲ促スニ資スルコトトナシタリ又各科目ヲ通シテ教授ヲシテ實際生活ニ適切有用ナラシムルト共ニ心力ノ啓培ニ力メシメンコトヲ期セリ



次ニ各學科目ヲ基本科目ト増課科目トノ二類ニ分チ本科第一部第一學年乃至第三學年ニ於テハ基本科目ヲ一様ニ學修セシムレトモ本科第一部第四學年以上及本科第二部並ニ專攻科ニ於テハ基本科目ヲ必修セシムルノ外増課科目中ヨリ適宜數科目ヲ選擇シテ生徒ノ性能、趣味等ニ應ジ進ミタル程度ノ學修ヲナサシムルコトトナセルハ教授ノ效果ヲ一層大ナラシメンコトヲ期シタルカ爲ナリ

以上ハ今回改正ノ主要ナル事項ニシテ之ヲ要スルニ本科第二部ノ修業年限ヲ延長スルノ外一般ニ涉リテ學科課程ヲ改善シテ教育ノ内容ヲ充實シ教育者タルノ德操識見ヲ一層向上セシメ優良ナル教員ヲ養成シ以テ國民教育ノ振興ヲ期セントスルニ在リ而シテ制度改善ノ趣旨ヲ全ウセンカ爲ニハ師範學校教職員ヲシテ一層研鑽ニ力メシムルト共ニ優良ナル教職員ノ配置方ニ就キ深く留意センコトヲ要ス地方長官ハ克ク改正ノ趣旨ヲ體シ學校當事者ヲ督勵シ以テ師範教育改善ノ實績ヲ擧ケンコトヲ期セラルベシ

師範學校教授要目ノ改正

昭和六年三月十一日  
文部省訓令第七號

北海道廳府縣

大正十四年文部省訓令第七號師範學校教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ各學校長ヲシテ本改正要目ニ準據シ地方ノ情況ニ適切ナル教授細目ヲ以テ各學科教授ノ内容ヲ充實シ克ク師範教育ノ本旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルヘシ

師範學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身

公民科

哲學

教育

國語漢文

歷史

地理

英語

數學

理科

家事

裁縫

實業

農業

工業

商業

圖畫

手工

音樂

本要目實施上ノ注意

- 一、各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトニ力ムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保タンコトヲ要ス
- 二、本要目ニ掲ケタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナシ
- 三、教授用具ハ教授上差支ナキ限り成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員若ハ生徒ノ製作ニ係ルモノヲ以テ之ニ充テンコトニ力ムヘシ又諸學科ニ通スル用具ハ成ルヘク之ヲ兼用スヘシ
- 四、教授ノ際小學校ニ於ケル教授ヲ顧慮シ生徒ヲシテ常ニ之ニ留意セシムルヤウ便宜指導スヘシ特ニ本科第二部ニ在リテハ小學校ニ於ケル教材ノ研究ニ重ヲ置キ且既修知識ノ整理補充ヲ爲サンコトニ力ムヘシ



修身

低學年ニ於テハ主トシテ道德ノ要領、教師ノ心得等ヲ授ケ其ノ歸趨ヲ教育ニ關スル勅語ヲ始メ戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書及其ノ他ノ詔勅ニ求メテ特ニ國體ノ尊嚴ナル所以ヲ會得セシメ忠君愛國ノ大義ヲ明ニシ國民道德ニ對スル信念ヲ鞏固ナラシメ且我カ國ノ世界的地位ヲ自覺セシムルコトニ力ムルモノトス高學年ニ於テハ倫理學ノ大要、社會生活ノ原理ヲ授ケテ國民道德ノ根據ニ對シテ確信ヲ與ヘンコトヲ旨トシ又國民道德ノ特質ヲ十分明確ニ悟了セシムルト共ニ時代思想ニ對シテ正シキ批判力ヲ養ハンコトニ力ムルモノトス

本科第一部

○第一學年及第二學年 每週一時

○第三學年 每週二時

教育ニ關スル勅語

戊申詔書

國民精神作興ニ關スル詔書

其ノ他ノ詔勅

道德ノ要領

心身ノ修養

家生活

社會生活

國家生活

國際生活

教師ノ心得

作法

○第四學年及第五學年 每週二時

倫理學ノ大要

社會生活ノ原理

國民道德

我カ國體

我カ國道德ノ由來

教育ニ關スル勅語發布ノ由來

教育ニ關スル勅語ノ精神ト國民道德ノ特質

時代思想ノ批判

小學校ニ於ケル修身教授法及教材ノ研究

作法

本科第二部

○第一學年及第二學年 每週二時

教育ニ關スル勅語

戊申詔書

國民精神作興ニ關スル詔書

其ノ他ノ詔勅

教師ノ心得

小學校ニ於ケル修身教授法及教材ノ研究

右ノ外本科第一部第四學年及第五學年ノ教材中ヨリ適宜取捨シテ教授スヘシ

專攻科 每週二時

東洋及西洋ニ於ケル主要ナル倫理學說

現代ノ倫理思想



國民道德ト倫理學  
小學校ニ於ケル修身教授ノ研究

注意

- 一、修身ノ教授ハ單ナル知識ノ教授ニ終始セス生徒ノ自覺ヲ喚起シ道德的の信念ヲ養成センコトニカムヘシ
- 二、修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ適應セシメ努メテ實際ノ生活ニ適切ナラシムヘシ
- 三、女生徒ニ對シテハ前掲ノ道德ノ要領ヲ授クル際女子ニ必要ナル諸徳ヲ養ハンコトニ注意スヘシ
- 四、國民道德ノ教授ニ於テハ特ニ生徒ヲシテ我カ國ノ文化ニ親マシムルヤウ留意スヘシ
- 五、作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ之ヲ授クルニハ特ニ時間ヲ設ケスシテ各教材ヲ授クル際便宜併セ課スルモ可ナリ
- 六、教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

公民科

本要目ハ法制上經濟上及社會上ノ事項ニ關シ日常生活ノ關係ヨリ其ノ教材ヲ排列シ常ニ實踐上ノ問題ニ歸結セシメンコトヲ期セリ

教材中我カ郷土、我カ府縣、我カ國家等ノ題目ヲ選ヒタルハ生徒ノ親熟シタル日常生活ノ事項トシテ之ヲ取扱ハンカ爲ナリ

本科第一部

○第四學年

每週二時

人ト社會

人ト社會 共同生活ト生存共榮 國家ノ重要意義

我が家

家庭生活 我カ國ノ家族制度 戶主・家族 親族・婚姻 戶籍・相續

一家ノ生計

一家ノ收入 生計費 勤儉貯蓄 保險 財産

職業

職業ト人生 職業ノ選擇 勤勞ト研究 職業ト道德

教育

人ト教育 家庭教育 學校教育・義務教育 社會教育

社會教育ヲ教授スル際新聞雜誌等ノ事項ニ説及フヘシ

神社

神社 敬神崇祖

宗教

宗教 信教ノ自由

公安

警察ト公衆 災害防止 公衆衛生

地方自治

地方自治ノ沿革 地方自治ノ精神 我カ郷土

我カ郷土ヲ教授スル際愛郷愛國ノ事ニ説及フヘシ

市町村

市町村ノ自治 公民 議員ノ選舉 市町村會市役所・町村役場 市町村ノ財政 市町村ノ財産

府縣

府縣ノ自治 府縣廳 我カ府縣

農村ト都市

農村ト都市 農村生活 農村ノ開發 都市ノ生活 都市ノ改善



産業

産業ト國民經濟 農業 工業 商業 其ノ他ノ産業

農業・工業・商業等ノ任務・要素及企業形態、産業組合・産業助成機關等ニ説及フヘシ

貨幣及金融 貨幣 物價 信用 金融機關

交通

交通機關 交通ト文化

交通道德ノ事ニ説及フヘシ

○第五學年 每週二時

國家

人類ト國家 國家ノ要素 國體ト政體 我カ國家

皇室ト臣民

天皇 皇位繼承 皇室典範 皇室及皇族 皇室ト臣民

詔勅ノ事ニ説及フヘシ

立憲政治

立憲政治 帝國憲法 臣民ノ權利義務

帝國議會

帝國議會 議員ノ選舉 議會ノ作用 政黨

國務大臣 樞密顧問

國務大臣 內閣 樞密顧問

行政官廳

行政官廳 行政官廳ノ種類 官吏

國法

國法 國法ノ種類 法ノ尊重 法ト道德

裁判所

司法 裁判所 訴訟・調停 陪審

國防

國防 兵役 我カ國ノ軍備 國防ト國民

國交

國交 條約 國際協同 國交ト國民

財政

歲入ト歲出 租稅 官業 公債

我カ國ノ産業

我カ國ノ産業 我カ國ノ貿易 資源ノ開發

人口ト國土

人口ト國土 拓殖ト移住 海外發展

社會改善

人口ト國土ノ教授ノ際我カ領土、租借地、委任統治ノ地域等ノ事ニ説及フヘシ

社會問題

社會問題 社會政策 社會事業 社會改善

世界ト日本

人類文化ノ發達 文化史上ノ我カ國ノ地位我カ國ノ使命

小學校ニ於ケル諸教科目中ニ於ケル公民教材ノ研究

本科第二部 ○第一學年及第二學年 每週一時



既修智識ノ整理及補充

小學校ニ於ケル諸教科目中ニ於ケル公民教材ノ研究

專攻科

增課教材

政治生活ニ關スル問題

經濟生活ニ關スル問題

社會生活ニ關スル問題

注意

一、公民科ノ教授ハ事例ヲ成ルヘク日常生活ニ於ケル經驗ニ求メ理論ニ偏セスシテ實際ヲ主トシ且道德的情操ノ陶冶ニ力メ特ニ修身トノ聯絡ニ留意スヘシ

二、本要目ハ土地ノ情況等ニ應シ適宜斟酌シテ運用スヘシ

哲學

哲學ハ形而上方面ノ修養ニ依リテ人格ヲ高尚ニシテ堅實ナラシメシコトヲ旨トス故ニ本要目ニ於テハ東洋思想特ニ我カ國民思想ノ發達ニ關係アル方面ニ重ヲ置キ尙修身・教育ノ根據ニ對シ確信ヲ與フルノ趣旨ヲ以テ之ヲ選定セリ

專攻科

每週三時

哲學ノ概念

東西哲學思想發達ノ大要

我カ國民思想ト支那・印度及西洋哲學トノ關係

孔子及先秦諸子ノ學 漢・唐・宋・明ノ學 我カ國ノ儒教

印度哲學及佛教 我カ國ノ佛教

「ギリシヤ」哲學 「キリスト」教及中世哲學 近世哲學

現代ノ哲學

實在ノ問題（形而上學）

實在ノ量 實在ノ質 實在ト現象

知識ノ問題（認識論）

認識ノ起源 認識ノ限界 認識ノ對象

人生ノ問題（價值論）

科學 道德 藝術 宗教

社會 歷史

注意

一、現在ノ文化ニ關スル事項ニ就テハ特ニ之ニ對スル理會ト批判力トヲ得シメンコトニ留意スヘシ

二、體系の論述ノ際ニモ適宜之ニ關係アル歷史的の敘述ヲ加フヘシ

三、修身教育・歷史等トノ聯絡ニ注意スヘシ

教育

教育ハ心理學・論理學ヨリ始メ教育學・教授法及保育法、近世教育史ヲ授ケ教育制度、學校ノ經營及管理、學校衛生ニ及ホシ最後ノ學年ニ於テ教育實習ヲ課スルモノトス而シテ本科各學年ニ於ケル教材ノ配當ハ大凡左表ニ據ルモノトス

本科第一部

第三學年 每週二時	心理學	論理學 教育學 教授法及保育法	第四學年 每週四時	近世教育史 教育制度 學校ノ經營及管理 學校衛生 教育實習
第五學年 每週五時				



本科第二部

五五六

心理學 論理學 教育學 教授法及保育法	第一學年 每週六時	近世教育史 教育制度 學校經營及管理 學校衛生 教育實習	第二學年 每週六時
------------------------------	--------------	--	--------------

本科第一部

心理學

精神現象 心理學研究ノ方法

精神現象ノ生理的基礎

意識 注意 感覺 知覺 記憶 想像 思考 感情 衝動及本能 意志 品性 個性 社會心 作業 學習

心身ノ發達

心性考查法大要

論理學

思考ノ原理 名辭 命題 論式 演繹法 歸納法 探究的方法 統整的方法 誤謬

教育學 教授法及保育法

教育ノ意義

教育ノ目的 小學校教育ノ目的

教師ト兒童

教育ノ方法

教育ノ效果及其ノ考查

教育ノ種類ノ學校系統

家庭教育 社會教育

保育ノ任務 保育ノ方法

教育測定法

教育指導法及職業指導法

近世教育史

近世本邦教育ノ概要

近世歐米教育ノ概要

現今歐米教育ノ情況

本邦明治維新以後ノ教育

教育制度 學校ノ經營及管理 學校衛生

教育制度ノ概要

小學校

小學校ニ類スル各種學校及小學校ニ併置セラルル教育施設

幼稚園

小學校ノ經營及管理

小學校ニ於ケル保健衛生 學校醫及學校看護婦 身體檢查

學校ニ於ケル疾病ト其ノ豫防並ニ治療ノ心得

教育實習

授業參觀

授業ノ實習

訓練ニ關スル指導及實習



學校事務ニ關スル指導及實習

本科第二部

本科第一部第三學年乃至第五學年ニ準ズ

專攻科 每週四時

心理學

現代心理學研究ノ趨勢及諸問題

教育ニ關スル心性考査ノ理論及實際

教育學

現代ノ教育思想

教育ノ方法ニ關スル諸問題

社會教育ニ關スル理論及實際

增課教材

心理學

既修知識ノ補充總括

現代ノ心理學說

論理學

既修智識ノ補充總括

現代論理學研究ノ趨勢及諸問題

注意

一、心理學ヲ授クルニハ努メテ之ヲ教育上ノ實際ニ應用シ且適宜實驗ニヨリ之ヲ理會セシムヘシ又發達の、社會的及變態的方面ノ知識モ適當ニ加フヘシ

二、論理學ヲ授クルニハ教育上ノ應用ニ注意シ思考ノ練習ニ重ヲ置クヘシ

三、教育學ヲ授クルニハ倫理學・心理學・論理學等ノ知識ヲ應用シテ教育ノ據ルヘキ原理ヲ明ニシ且常ニ小學校教育ノ實際ニ通セシメントニカムヘシ

四、教授法及保育法ヲ授クルニハ兒童心身ノ發達ノ理ニ基キ教育ノ理論ト實際ト生活トニ顧ミテ適切ナル方法ヲ明ニスヘシ

五、近世教育史ヲ授クルニハ常ニ其ノ現實ニ及ホシタル影響ニ著眼シ殊ニ小學校ノ變遷ニ重ヲ置クヘシ又教育ノ思想及制度ノ變遷竝ニ其ノ相互ノ關係ヲ知ラシメ主ナル教育家ノ傳記及學說ヲ其ノ時勢ト關聯シテ授ケ更ニ其ノ教育上ニ及ホシタル影響ヲモ明ニスルト同時ニ教育者タル信念ノ培養ニカムヘシ

六、教育制度、學校ノ經營及管理竝ニ學校衛生ヲ授クルニハ現行法規ノ要旨ヲ明ニシ總テ小學校教育ノ實際ノ事項ニ就テ之ヲ説明センコトニカムヘシ

國語漢文

國語講讀ハ讀方及解釋、話方・暗誦・書取ヲ課シ其ノ材料ハ總テ文章ノ模範タリ而シテ國體ノ精華、民俗ノ美風、賢哲ノ言行等ヲ敍シ以テ健全ナル思想、醇美ナル國民性ヲ涵養スルニ足ルモノ、欽仰スヘキ教育者等ノ傳記ニシテ修養ニ資スヘキモノ、文藝ノ趣味ニ富ミテ心情ヲ高雅ナラシムルモノ、日常ノ生活ニ裨益アリ常識ヲ養成スルニ足ルモノ等タルヘシ但シ女生徒ノ爲ニハ特ニ女子ニ必要ナル道德ノ涵養ニ適切ナル材料ヲ加フヘシ

漢文講讀ハ讀方及解釋、暗誦・書取、簡單ナル復文ヲ課シ其ノ材料ハ略國語講讀ノ場合ニ準ス而シテ邦人ノ著作ニ係ルモノヲ主トシ更ニ德教ニ關係深キ漢籍中ヨリ之ヲ選フヘシ

作文ハ平明達意ニシテ實際ニ適スル文ヲ作ラシメ且生徒ノ作品ニ就キ添削批評ヲ爲スヘシ尙特ニ作文ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ國語漢文ノ講讀ノ時間内ニ於テ成ルヘク多ク之ヲ課スヘシ

文法ハ國文法ノ大要ヲ授ケテ國語ノ特色ヲ理會セシムヘシ尙特ニ文法ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ常ニ講讀・作



文等ニ附帶シ實例ニ就テ之ヲ教ヘ正確ナル語法ニ練熟セシムヘシ  
文學史ハ國文學ノ史的發展ヲ略述シ國民性ノ由來スル所ヲ知ラシムヘシ  
習字ハ楷書・行書・草書及假名ヲ課シ開架結構ノ大要ヲ知ラシメ且實用ニ適切ナラシメンコトヲ期スヘシ尙特ニ習字ノ  
時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ作文・書取其ノ他ノ場合ニ於テ常ニ正確ナル書方ニ注意セシムヘシ

本科第一部

○第一學年

- 國語講讀 每週六時
- 漢文講讀 每週二時
- 文法 每週二時
- 習字 每週一時
- 作文 每週一時

隔週一時必ス國語・漢文講讀ノ時間ニ於ニ之ヲ課スヘシ

○第二學年

- 國語講讀 每週六時
- 漢文講讀 每週二時
- 文法 每週二時
- 習字 每週一時
- 作文 每週一時

前學年ニ準ス

○第三學年

- 國語講讀 每週五時
- 國語講讀 每週二時

- 漢文講讀 每週二時
- 習字 每週一時

○第四學年

- 國語講讀 每週四時
- 第一學期及第二學期 每週二時
- 漢文講讀 每週一時
- 文學史 每週一時

- 小學校ニ於ケル國語教授法及教材ノ研究 每週二時
- 第三學期 每週二時

增加教材

每週二時乃至四時

- 國語講讀
- 漢文講讀
- 習字

○第五學年

- 國語講讀 每週四時
- 國語講讀 每週二時
- 漢文講讀 每週一時
- 文學史 每週一時
- 增課教材 每週二時乃至四時

- 國語講讀
- 漢文講讀
- 文法



小學校ニ於ケル國語教材ノ研究

本科第二部

○第一學年

男 每週二時  
女 每週三時

國語講讀 漢文講讀

作文

習字

小學校ニ於ケル國語教授法及教材ノ研究

增課教材

每週二時乃至四時

國語講讀

漢文講讀

習字

○第二學年

男 每週二時  
女 每週三時

國語講讀 漢文講讀

文學史

增課教材

每週二時乃至四時

國語講讀

漢文講讀

文法

小學校ニ於ケル國語教材ノ研究

專攻科

每週三時

國語講讀

每週二時

漢文講讀

每週一時

作文・文法及習字ハ便宜之ヲ課スヘシ

增課教材

國語・漢文若クハ習字ノ一又ハ二以上ヲ選修セシム

注意

一、國語漢文ノ教授ハ常ニ生徒ノ思想感情ヲ啓發陶冶シ之ニ由リテ高尚ナル人格ヲ成シ特ニ愛國的精神ヲ養ハシムコトヲ期スヘシ

二、國語漢文ノ教授ニ際シテハ發音ヲ明確ニシ句讀ヲ正シクシ假名遣、漢字ノ字畫・用法ニ留意シ語句文章ヲ理會シテ全文ノ意義ヲ領得セシメ文章ノ妙味ヲ玩賞批判セシムヘシ又漢文教授ニ際シテハ國語ノ法則ニ準據シ且漢文ト國文トノ異同ヲ辨シ漢文ノ特徵ヲ會得セシムヘシ尙低學年ニ於テハ辭書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

三、國語漢文各分科ノ教授ハ互ニ聯絡補益センコトニ力ムヘシ

四、文法ノ教授ニ於テハ國語ノ特色ヲ理會セシムルト共ニ國語愛護ノ精神ヲ養ハシムコトニ留意スヘシ特ニ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ常ニ講讀・作文等ニ附帶シ實例ニ就テ之ヲ教ヘ正確ナル語法ニ練熟セシムヘシ尙增課教材中ニ成ルヘク文法ノ時間ヲ設ケテ之ヲ課スヘシ

五、習字ニ在リテハ黑板上ノ練習ヲモ適宜之ヲ爲サシムヘク又硬筆習字ヲ加フルモ妨ナシ尙本科ノ高學年及專攻科ニ於テ習字ヲ課スル際適宜書法及書ノ鑑賞ニ就テ指導スヘシ

歴史

歴史ノ教授ハ外國史中東洋史ヲ以テ始メ西洋史ニ及ホシ國史ヲ以テ結フモノトス

本科各學年ニ於ケル歴史ト地理トノ基本教材每週教授時數配當ハ大凡左表ニ據ルモノトス



